

コープみらい/  
サステナビリティレポート

# 2024

未来へ  
つなごう



# 未来 つなごう



# コープみらい

エスディーゼーズ

## SDGsの取り組み

- 04 トップメッセージ
- 05 コープデリグループ理念 コープデリグループ ビジョン2035
- 06 特集1《特別座談会》  
「ともに」の力で、笑顔の明日を<sup>あした</sup>  
「ビジョン2035」策定、生産者団体との特別座談会  
農事組合法人多古町旬の味産直センター 代表理事 鎌形 芳文さん  
農事組合法人埼玉産直センター 代表理事 井上 賢一さん  
東京都酪農業協同組合 代表理事組合長 平野 正延さん
- 12 特集2 コープみらい10周年記念事業
- 16 SDGsとコープみらい
- SDGs重点課題と2023年度の取り組み
- 18 **01** 持続可能な生産と消費のために  
持続可能な生産と消費のために、  
商品とくらしのあり方を見直していきます
- 26 **02** 安心して暮らせる地域づくりのために  
誰もが安心してくらし続けられる  
地域社会づくりに貢献します
- 30 **03** 人にやさしく誇りが持てる組織を目指して  
1人1人の人権・多様性が尊重され、  
誰もが安心して働ける職場づくりを進めます
- 34 **04** 100年後の地球のために  
再生可能エネルギーの利用・普及を進め、  
地球温暖化対策を進めます
- 38 **05** 世界中の人々の平和で健康な生活のために  
世界から飢餓や貧困をなくし、  
世界平和を実現できる取り組みを進めます
- 40 サステナビリティデータ
- 43 ガバナンス・内部統制
- 44 フードチェーンにおけるSDGs活動MAP
- 46 コープみらいのサステナビリティ活動のあゆみ
- 48 コープ(生協)ってなんだらう
- 49 コープみらいとコープデリグループについて
- 50 コープみらいの事業と活動

コープみらいは前身の生協から半世紀以上にわたり人と自然が共生する社会と平和な未来づくりに取り組んでまいりました。

今後も皆さまとともに豊かな未来をはぐくむためにコープみらいは、新たな試みに挑戦していきます。

### 編集方針

「コープみらい／サステナビリティレポート2024」は、SDGs(持続可能な開発目標)を指針とし、コープデリグループの理念・ビジョンと関連付けながら、主な取り組みを紹介し、「コープデリグループのSDGs重点課題～2030年までの長期目標と中期方針～」で掲げた目標と進捗状況を報告します。

#### 【対象者】

組合員・消費者、職員、社員、取引先、地域社会、未来社会

#### 【対象期間】

特に断りのない限り2023年度(2023年3月21日～2024年3月20日)です。

#### 【対象範囲】

コープみらいの活動を中心に報告していますが、コープデリグループ全体で行っている活動についても掲載します。なお、コープデリグループ、コープデリ連合会については、49ページをご覧ください。

#### 【報告数値】

特に断りのない限りコープデリグループの数値を掲載し、コープみらいの数値の場合はその旨を明記します。数値は端数処理をしているため、合計値が合わない場合があります。

#### 【発行年月】

2024年8月

コープみらい  
サステナビリティサイト



サステナビリティサイト  
動画ギャラリー



コープデリグループの  
サステナビリティ  
Instagram



# トップメッセージ



「未来へつなごう」をスローガンに、  
助け合いの組織として、  
地域共生社会づくりに参画し続けます。

代表理事 理事長

熊崎 伸

コープみらいの事業と活動への皆さまのご協力ご支援に、心より御礼申し上げます。

2024年6月に開催された第12回通常総代会にて、コープみらいをはじめとするコープデリグループの10年後のありたい姿をあらわす「ビジョン2035」が承認されました。

またコープデリグループでは、持続可能な社会の実現に貢献するため「SDGs重点課題～2030年までの長期目標と中期方針～」を定め、「未来へつなごう」をスローガンに取り組みを進めています。コープデリグループの理念・ビジョンとSDGsの目指す方向は同じです。SDGsの達成に貢献し、グループ536万人の組合員と2万5,000人の職員がともに掲げるビジョン2035の実現を目指します。

2024年1月に発生した能登半島地震は、石川県を中心に甚大な被害をもたらしました。コープみらいでは宅配・店舗などで緊急支援募金を呼びかけ、組合員から3億円を超える善意をお寄せいただきました。全国の生協からの募金と合わせ、被災された方々への支援に役立てられています。また、被災地の生協であるコープいしかわの配達事業を支えるため職員を1年間派遣するとともに、被災された方々を応援するメッセージをお届けするなど、被災地域の復興をさまざまな形で支援しています。これからも助け合いの組織として、被災され

た方々に寄り添った支援を続けてまいります。

1年間で約200トンのお米をフードバンクなど59団体へ寄贈する活動や、ひとり親・両親がいない家庭の高校生・高等専門学校生を支援する奨学金給付事業は、困難を抱える方々への支援につながっています。この間継続して取り組めているのも、多くの組合員の皆さまのご理解・ご協力があったからこそ。これからも「誰ひとり取り残さない」社会の実現に向けて取り組みを広げます。

今、世界では紛争のニュースが絶えません。組合員の皆さまからも、平和を次世代に継承していこうという声が寄せられています。「オキナワ・ヒロシマ・ナガサキ平和の旅」や各地域での平和を願う活動を通じて、核兵器廃絶への理解を広げ、戦争の悲惨さを知り、学び、伝える取り組みを広げたいと考えています。

価格高騰や気候変動、貧困と格差の拡大など、暮らしを取り巻く環境は厳しさを増しています。このような時代だからこそ、コープみらいは事業と活動の総合力で組合員の皆さまの暮らしに貢献します。生産者・取引先の皆さま、行政・諸団体の皆さまとのパートナーシップを大切に、「ともに」の力で笑顔の明日を迎えられる社会を目指して、これからも歩みを進めてまいります。

コープデリグループ理念

CO-OP

ともに はぐくむ 暮らしと未来

コープデリグループ ビジョン2035

# 食べるしあわせ、自分らしい暮らし 「ともに」の力で、<sup>あした</sup>笑顔の明日を

私たちは、助け合いの心と協同の力が生み出す「ともに」の力で  
未来をきりひらき、誰ひとり取り残さない社会を創ります

食の安全と安心を第一に、生産から消費のつながりをより豊かにし  
おいしさ、健やかさ、楽しさ、便利さなど  
それぞれの **食べるしあわせ** を叶えます。

さまざまなライフスタイル・ライフステージに寄り添った  
商品やサービス・多彩な活動で、**自分らしい暮らし** を実現します。

人を大切に多様性を認め合い、学びと対話を重ねながら  
**願いをかたちにする組織** を目指します。

地域の課題と、環境や平和などの地球規模の課題に向き合い  
さまざまな組織・団体とつながり  
**次世代に笑顔が続く社会** の一翼を担う存在になります。

※ビジョン2035は、組合員・働く仲間がともに掲げる2035年のありたい姿を表したものです。

## 「ビジョン2035」策定、生産者団体との特別座談会

コープデリグループは、2035年に向かって新しく「ビジョン2035」を策定しました。これまでともに歩んできた千葉県・埼玉県・東京都の生産者団体の皆さんをお招きし、ビジョン2035のめざす10年先の未来を語る特別座談会を開催しました。

コープみらいと地域の生産者団体の皆さんの現在の取り組み、そして、「ビジョン2035」の"「ともに」の力"でめざす未来とは。



(左から)平野 正延、打越 和佳子、熊崎 伸、井上 賢一、鎌形 芳文

### 出席者 | 敬称略

農事組合法人多古町旬の味産直センター 代表理事	鎌形 芳文
農事組合法人埼玉産直センター 代表理事	井上 賢一
東京都酪農業協同組合 代表理事組合長	平野 正延
生活協同組合コープみらい 代表理事 理事長	熊崎 伸
生活協同組合コープみらい ビジョン 2035 検討ワーキングチームリーダー 統括部長(当時)	打越 和佳子

## 「ビジョン2035」の策定と、生産者を取り巻く現在の状況



**熊崎** コープデリグループは今年、「ビジョン2035」を策定しました。コープみらいだけでなく、コープデリグループの将来を担う若

手職員31人で検討ワーキングチームをつくり、2年近くかけて練り上げられたビジョンです。チームリーダーを務めた打越さんからビジョンと込めた想いを紹介します。



組合員による生産現場訪問(多古町旬の味産直センター)

**打越** 私たちのビジョンは、コープデリグループ536万人の組合員と2万5,000人の働く仲間がともに掲げ、一緒に実現をめざすコープデリグループのありたい姿を表したものです。ワーキングチームでは「生協だからできること」「地域から期待される生協の役割」などを話し合い、2035年のありたい姿を考えてきました。変化が激しく予測困難な時代だからこそ、組合員と働く仲間、そして生協を取り巻くさまざまな人々とも力を合わせることで未来をきりひらく想いを「ともに」の力と表現しました。

**熊崎** この「ともに」の力を象徴するのが、コープみらいと関わりの深い、地域の生産者団体の皆さんです。2035年の未来を考えるにあたり、皆さんが感じている生産現場の状況、また

課題や取り組みなどをお聞かせいただけますか。

**鎌形** 多古町旬の味産直センターは、千葉県成田空港のすぐ隣の多古町で野菜や米の農家が集まり、農事組合法人という形で運営しています。

現状、一番困っていることは、ここ数カ月で特に顕著な、資材、肥料、エネルギー価格の高騰です。対策としては、土壌分析を進めて肥料を節約しながら、より安全・安心でおいしい作物づくりに挑戦しています。農作業についても、無駄を省き効率化を図って収益を上げようと試んでいます。

人手不足や、生産者の高齢化の問題もあります。多古町旬の味産直センターでは野菜の出荷量の約60%が50代以下の生産者となり、私を含めて世代交代は進んできてはいますが、全体を見ると今後生産者が減り、地域で農業を支えてくれる関係人口も減ることが予想されます。

**平野** 東京都酪農業協同組合は、東京都の酪農家で構成されています。組合が発足した1996年には130軒でしたが現在は37軒です。このような酪農家の減少に加えて、さまざまな資材の値上がりが生産者に打撃を与えています。

地球規模の温暖化による干ばつや戦争の影響で、輸入飼料の価格が極度に上がってしまったので、全国の酪農家の85~90%が赤字といわれています。

**井上** 埼玉産直センターは、埼玉県北部の深谷市を中心とした、野菜の生産者のみの農事組合法人です。新規就農や代替わりなどで平均年齢は59歳と全国平均より10歳近く若く、これはうれしいことです。



酪農風景

対して、このところ、  
資材もエネルギーもす  
べて値上がりし、農業  
を続けていくことの困  
難さは、日々感じてい  
ます。また、気候変動の



問題、温暖化の問題も深刻です。夏の酷暑という隣の熊谷市が有名ですが、実は深谷市も同じくらい高い。昨夏は7~10月まで35~40℃という環境で栽培を続けていました。

## 「未来の夢アンケート」に 寄せられた組合員の願いと期待

**熊崎** 資材などの高騰、人手不足や後継者問題、気候変動の問題など、生産者の皆さんに共通する課題が見えてきました。

一方でコープみらいは、生産者の皆さんと消費者である組合員との懸け橋になりたいという思いで活動してきました。「ビジョン2035」の策定にあたって組合員にアンケートをとりました。打越さん、どんな声がありましたか。

**打越** 「未来の夢アンケート」として「2035年の暮らしの願い」「コープデリグループへの期待」について組合員に尋ねたところ、コープデリグループ合計で6,000件を超える声が寄せられました。一例をあげると、「みんなが笑顔で健康にらせる平和な世の中であってほしい」「日本の食料生産を守り、安全・安心な食を提供してほしい」「生産者も私たち消費者もWin-Winの関係になれるように、橋渡しをしてほしい」「子どもたちのために地球環境に優しい取り組みを推進してほしい」といった願いや生協への期待が寄せられました。

**熊崎** 組合員の声で特徴的だったのは、「私が幸せになるだけでなく、みんなが幸せにならないと、持続可能な社会は生まれてこない」という思いを、多くの人が抱いていることでした。また、コープみらいの組合員は地域とのつながりや学びをとても大切にしています。皆さんは日頃から組合員と積極的に交流してくださっていますね。

**井上** コープみらいとの連続企画で、野菜の種まきから収穫までを組合員さんに体験してもらう「畑のがっこう」をコロナ禍で中断していましたが、再開しました。今年こそ、郷土料理の煮ぼうとうをつくって皆さんに食べてもらいたい。子どもたちに野菜のおいしさ、郷土の食べものを伝えていく食育活動をしていけたらと思います。

そして、コープの職員さんの学び。今年2月に宅配センター長や配達担当者の皆さんに産地に来てもらい、深谷ネギや農産物の学習会を行いました。野菜は畑やハウスでどのように栽培されているのか、どうすればおいしい野菜ができるのかを見てもらいました。私は常日頃から、「私たち生産者は点。消費者である組合員さんも点。そこを線でつないでくれるのが職員の方」と語るようにしています。その線の人たちが、生産者の気持ち、組合員さんの気持ちを分かってくつなげてくれば、潤滑かつ感動的になるのだと思います。



職員を対象とした深谷ネギ学習会

**平野** オリジナルブランド「コープとうきょう牛乳」を2006年からコープみらいで販売していただき、とても励みになっています。この前も宅配センターの職員さんが、「コープとうきょう牛乳」を組合員さんにもっと飲んでもらおうという企画に取り組み、前年比105%も利用していただきました。「本当においしい」「とてもいい牛乳だ」という組合員さんの声をフィードバックしていただき、もっとがんばろうと気持ちを新たにすることができました。



コープとうきょう牛乳

職員さんに酪農の現場を見ていただく交流を行っていることも、継続して飲んでいただくことにつながってきていると思います。

**熊崎** われわれ職員も、コープの商品がおいしいとか、すごく良かったという組合員の声で、モチベーションが上がります。組合員がいるのが生協の強みであり、組合員の存在が生産者の皆さんの力にもなっているということですね。



**鎌形** 同感です。買ってくださいる組合員さんへの感謝、そして、つないでくださいる職員さんへの感謝。先日サツマイモ「あまゆう」の学習

会を東京エリアで開催し、販売したのですが、コープの職員さんは、まるで私たち産直センターの販売員であるかのように熱心に組合員さんに薦めてくださいました。



職員による「あまゆう」の学習会

2019年に台風15号が襲来した時のことも、忘れられません。何十年ぶりかという大きな被害に遭い大変な試練でしたが、真っ先に水や食料を届けてくださったのがコープみらいでした。その後も、職員さんが倒壊したハウスの解体を手伝ってくださいました。生産を再開してからは、販売や購入によって職員さんと組合員さんが支援してくださいました。本当にありがたく、得がたい体験でした。

**熊崎** あの時は、コープの職員のべ700人以上が手伝いに行きました。チームをつくって、毎週末訪問していました。実は組合員からも手伝いに行きたいという声があがったのですが、まだ危ないので、まずは職員が行きますとお断りしていました。

生産者の皆さんから共通して聞けたのは、学び合うことが次の「食べるしあわせ」につながるということかと思います。われわれ職員や組合員も学ぶことで、その商品が持っている本当の魅力を知り、よりおいしく、しあわせに食べることにつながっています。

## 「ともに」の力で、 笑顔の明日を

**熊崎** ここからは「ビジョン2035」の「笑顔の明日を」という未来に向けて、皆さんがどんなことを考えているのかを語っていただこうと思います。

**鎌形** 「私たちは、農業を通じて、人・環境・地域社会を元気にします」という理念を制定しました。先祖代々農業を営んでいる土地から、離れることはできません。この地域を元気にしなければ、自分たちも持続できないことを切実に感じています。

**熊崎** 人・環境・地域社会を丸ごと元気にするという、素晴らしい理念だと思います。電気の事業も手がけていらっしゃいますね。

**鎌形** 組合員さんから参加費を募って太陽光パネルを設置し、発電した電力を(株)地球クラブ\*1に供給しています。参加してくださった組合員さんには、私たち生産者の野菜セットを5年または10年間お届けしています。



直売所の屋根に設置した太陽光パネル

※1 地球クラブ：  
生協の電力事業を担うために設立された、日本生協連の子会社。

**熊崎** 産地とのつながりが農産物だけでなく、くらしのさまざまなことにまで広がっている。産地と組合員の「ともに」の力が生み出す、循環型で持続可能な素晴らしい取り組みだと思います。



**平野** 酪農家37軒のうち20代から50代前半が32軒を占めるようになり、東京の酪農の担い手として育ちつつあります。ただ、酪農

という事業は休みがない。そこで、酪農家に代わって作業を行う酪農ヘルパーの組合をつくっています。

また、飼料高騰への対策として、8年ぐらい前から国産飼料を導入してきました。自分たちである程度飼料をまかなえるよう、デントコーンを種から栽培することも試みています。

さらに、2019年から特色のある牛乳づくりを進めています。お腹にやさしいとされる牛乳「A2ミルク\*2」です。組合では「A2ミルク」を出す牛がほとんどとなりましたので、組合員さんにぜひ飲んでいただきたいです。

※2 A2ミルク：  
牛の遺伝子の違いにより、牛乳に含まれるタンパク質のベータカゼインがすべてA2型の牛乳。

**熊崎** 組合員や職員の中にも体質的に牛乳が飲めない人はいますが、そういう人たちが牛乳の栄養をとれるようになったら素晴らしいことです。「A2ミルク」の学習会を実施するのもいいかもしれませんね。

**井上** 私どもも今後10年のビジョンをつくろうとしています。これからを担う若い人にどのように活躍してもらうかがカギになると思っています。組合に参加している新規就農者や、親から継いで代替わりした若い生産者には、この地域の農業を何とかしてやろうという気概があります。地球に負担がかかるようなやり方の農業では、時代に合わないことをよく分かっている人たちです。

肥料づくりに関しても、コープのお店で出た食品廃棄物を堆肥化したり、下水道局で適正に処理した沈殿物を再利用した堆肥の活用を開始しています。地域の人たちの生活と畑がつながり、大きな循環をつくる。春の露地栽培から始まり、この夏からは私たちのすべての野菜にこの肥料が入ることになります。

また、「ビジョン2035」の「笑顔の明日を」というフレーズを聞いて真っ先に思い浮かんだのが、コートジボワール共和国のことです。昨年、コープデリグループの「ハッピーミルクプロジェクト」の支援国であるコートジボワールから生協のことや農業を学びに視察団が来られました。コートジボワールはアフリカの中では比較的裕福な国ですが、いざ会って話を聞いたら13人に1人の子どもが5歳の誕生日を迎えることなく亡くなってしまおうそうです。次世代に笑顔が続く社会をつくっていかうという時に、自分の周りだけ、日本だけが良ければいいというわけではなく、視野を広くもちたいと強く実感した出会いでした。



コートジボワールの視察団と

**熊崎** コープの店舗から出た食品廃棄物を堆肥化して使う循環型の農業、世界の子どもたちや貧困の問題。どちらも組合員が参加できることなので、これからもいろいろな可能性を模索していけたらと思います。

**打越** 「食べることで、社会貢献が出来るのが誇らしい」「コープみらいは社会とのつながりを大事にしている、自分でもそういったさま



ざまな取り組みに目を向けていきたい」とアンケートに書いてくれた組合員もいます。組合員、生産者の皆さん、働く仲間の中に、次世代まで笑顔が続く社会を願う気持ちとそのため自分ができたい、という共通する想いがあるからこそ、力を合わせてさまざまな社会の課題に立ち向かっていけることを改めて感じました。



**熊崎** コープの組合員は消費者なので、「食べて応援」「飲んで応援」することが基本にあります。それらをさらに発展させるためには何が必要なのかを念頭において、「ビジョン2035」を策定しました。

本日は、「ともに」の力を象徴する生産者団体の皆さんと、さまざまな角度からお話しできたことをとてもうれしく思います。今後の協同の取り組みに向けたヒントがいくつもあったと思うので、これらを活かして次の時代につなげていきましょう。笑顔あふれる明日に向けて、数々の取り組みを進めていくことを誓い合い、座談会を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

## コープデリグループ ビジョン2035

# 食べるしあわせ、自分らしい暮らし 「ともに」の力で、<sup>あした</sup>笑顔の明日を

私たちは、助け合いの心と協同の力が生み出す「ともに」の力で  
未来をきりひらき、誰ひとり取り残さない社会を創ります



埼玉産直センターでの総代学習会

未来へつなごう



コープみらい Anniversary



10周年ロゴについて

コープデリグループがSDGs重点課題推進スローガンとして掲げる「未来へつなごう」をキャッチコピーとし、10周年の「10」をSDGsの17色のカラーで表現しました。

## コープみらいは2023年に創立10周年を迎えました

1年間を通して組合員、取引先、行政や諸団体、地域社会、役職員などが参加・参画し、10周年を記念した企画を事業・活動の場で実施。コープデリグループのSDGs重点課題推進スローガン「未来へつなごう」をテーマに、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを、さまざまなイベントや媒体を通じて内外を問わず広く発信しました。これからも事業と活動を通じた多くのつながりを大切にし、地域社会と互いに価値を共有しながら持続可能な未来に向けてともに行動し続けていきます。

## 地域とともに

### 1 | 地域とともに「パートナーシップバトンリレー」

コープみらいエリアの自治体や関係団体、産地などお取引先、他生協、組合員・役職員などが10周年のメッセージを贈り合う、「パートナーシップバトンリレー」動画を制作しました。つながりのある自治体や団体、生産者、スポーツ協賛チームをはじめ、職員、組合員理事やブロック委員なども含め、合計で396ものお祝いのメッセージが寄せられました。

コープみらい創立10周年おめでとうございます。100年先も誰もが平和で安心して暮らせるよう、お互いに知恵を出しあって、一緒に取り組んでいきましょう。

10周年おめでとう!  
新たなみらいへ!!

コープみらいが、きめ細かにそれぞれの地域でつながりを大切にしながら頑張っているのが大きな力になっています。これからも大きく発展されることを心から期待しています。



コープみらい10周年!  
みんなで目指そう  
100周年!!!

コープみらい、  
大好き!!

10周年おめでとうございます。引き続き未来に向けた街づくりを、ともに進めてまいりましょう。

## 2 | スポーツチームとともに

コープみらいが協賛するプロスポーツチーム、Bリーグ・千葉ジェッツふなばし、WEリーグ・三菱重工浦和レッズレディース、Jリーグ・東京ヴェルディの冠試合を開催しました。試合にあわせ、観客にフードドライブ・スタディドライブを呼びかけ、たくさんのご協力をいただきました。

千葉ジェッツ戦では、2023年度新入職員が入職後に試合を観戦し、フードドライブにも参加しました。

(新入職員の参加について詳しくは32ページをご覧ください)



### 参加者の声①

コープみらい10周年おめでとうございます。娘が赤ちゃんの時に生協を始めました。そんな娘も今10歳です。スポーツ好きの娘と一緒に観戦出来たらと思います。おいしい生協さんの食べ物を食べ、娘はとても元気です。これからも頑張ってください。応援しています。



### 参加者の声②

こういう機会はとてもありがたい。プロスポーツの観戦はスポーツをしている子どもの励みや参考、刺激になる。スポーツをしていない人や、あまり興味がなかった人達にも興味を持つきっかけになるからよい企画だと思う。



## 3 | 「#ほぺたんといっしょ」

投稿希望者を募集し、150人の組合員にさまざまな日常と「ほぺたん」のぬいぐるみを一緒に写した写真を1年間で497件投稿していただきました。いろいろな風景、いろいろな人たちといっしょに写るほぺたんの写真で、地域との「ともに」を感じることができました。



## 組合員・職員とともに

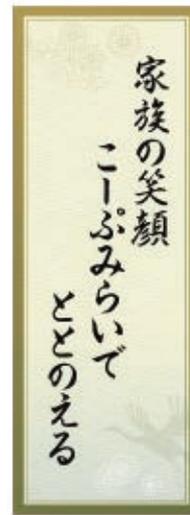
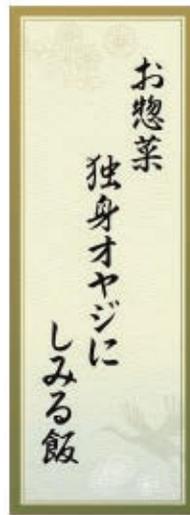
### 1 | ともに作ったラッピングトラック

若手職員を中心としたタスクメンバーが提案した10周年企画案から誕生したラッピングトラックは、組合員から募集した「私とコープみらい」をテーマにした絵をもとにデザイン。2024年3月まで14台が各エリアを走行しました。絵は1,842枚の応募の中から各センターで1枚、計76枚を選出。2パターンに分け38枚ずつをラッピングのデザインに施しました。



### 2 | わたしとコープみらい川柳

コープみらいの店舗では、組合員参加の感謝企画「コープみらいについての川柳大募集!」を実施しました。コープみらいとのつながりを思い思いの川柳で表現し、コープみらい全店で281件の応募があり、優秀作品を店内に掲示しました。その中から理事長賞3作品を選出し、10周年フィナーレの「コープみらいフェスタ きやっせ物産展」で表彰式を行いました。



### 3 | “10” にまつわる選手権

コープみらい10周年を記念して、“10”にまつわる選手権を実施しました。“10”にちなんだ画像をWebで募集し、ホームページで紹介しました。応募139作品の中から多くのイイネを集め、投票で上位となった3作品を「コープみらいフェスタ きやっせ物産展」で表彰しました。



## ▶ 食べるしあわせ

### 1 | 若手職員企画案「買って食べて未来へつなごう」

若手職員を中心としたタスクメンバーが提案した「買って食べて未来へつなごう」を宅配のみらい感謝祭別チラシで実施しました。「入社10年目の職員によるおすすめ」「担当者の手作りニュースの掲載」「加入10年目の組合員によるおすすめ」などの企画を年4回実施しました。



### 2 | 取引先とともに開発「10周年記念商品」

10周年記念商品を開発、販売しました。コエドブルワリーと共同開発した記念ビールや千葉県・埼玉県・東京都にある有名店が監修した人気ご当地メニューのコープデリミールキット、千葉県・埼玉県・東京都で生産された素材をブレンドした記念サワーなど、地域に根ざした商品を開発しました。10周年にちなみ、カゴメ「10品目の具だくさんトマトスープ」も開発し、組合員から募集したアレンジレシピコンテストを実施しました。



### 10品目の具だくさんトマトスープ

### 組合員のアレンジレシピ

Kさん

#### ぎよまとスープ



材料(2~3人分)

「10品目の具だくさんトマトスープ」…………… 1袋  
水…………… 1カップ(200ml)  
水餃子…………… 10個程度(茹でておく)  
黒こしょう…………… 適宜

作り方

1. 鍋に「10品目の具だくさんトマトスープ」と水を入れて火にかける。
2. 沸騰したら水餃子を加え、再度煮立ったらできあがり!
3. お好みで黒こしょうをどうぞ。

おみつさん

#### ロールらないキャベツ



材料(2~3人分)

キャベツ…1/4玉(2~3等分のくし切りにカット)  
豚バラ肉(薄切り)…150g(半分にかuttingして塩こしょう少々しておく)  
CO・OP ポークウインナーブラウンマイスター…2~3本  
「10品目の具だくさんトマトスープ」…………… 1袋  
水…………… 1/2カップ(100ml)

作り方

1. キャベツの葉のすき間に、豚バラ肉を1枚ずつ挟んだら鍋に入れる。
2. 「10品目の具だくさんトマトスープ」と水を加え、ふたをして中火にし、沸騰後ウインナーを加え、弱火で10分程煮込むだけ!

# SDGsとコープみらい

「誰一人取り残さない」を理念に掲げ国連で採択されたSDGs。最近では、新聞やテレビ番組でも頻繁に取り上げられ、「SDGs」という言葉やその意味を全く知らないという人は、もはや少ないのではないのでしょうか。コープみらいは世界共通の目標であるSDGsを指針とし持続可能な取り組みを進めています。

## ❖ 「持続可能」とは、今を生きる私たちも 未来を生きる人も幸せな社会をつくること

日本語では「持続可能な(Sustainable)開発(Development)目標(Goals)」と訳される通り、SDGsは未来を生きる人が困らないように、今を生きる私たちが、自分たちの都合だけで資源を使い切ってしまったら、自然を壊したりするのではなく、将来世代のニーズも見通しながら経済発展を行っていくという考え方です。同時に、今の世界に存在しているさまざまな矛盾や課題を今のうちに解決することで、将来世代が同じ問題で悩むことがないようにという思いも込められています。

SDGsが採択された2015年からすでに9年が過ぎ、達成年限の2030年まで残り6年になりました。目標の達成には取り組みの歩みを速める必要があります。コープデリグループはSDGs17の目標と169のターゲットに沿った5つの重点課題について、2030年までの数値目標を定め、SDGsの達成に向けて取り組みを加速させることを決めました。

## ❖ コープみらいのSDGs重点課題

国際社会の共通目標であるSDGsとコープデリグループの理念「CO-OP ともに はぐくむ くらしと未来」が目指す方向は同じです。私たちはSDGsが国連で採択される以前からリサイクル活動やエシカル消費対応商品の取り扱いなど持続可能な社会づくりに取り組んできました。私たちの事業と活動自体がSDGsに沿った取り組みと言えるかもしれません。

「コープデリグループのSDGs重点課題～2030年までの長期目標と中期方針～」は、コープデリグループが重点的に取り組むべき課題と目標を掲げることで、社会における役割と存在意義を明確に示し、SDGs達成に貢献するべく策定したものです。

しかし、私たちが掲げた目標は、コープデリグループ単独では実現することが困難です。目標の達成状況、取り組む姿勢を社会に向けて発信することで、組合員や同じ志を持つ企業・団体とつながり、ともに達成を目指していきたいと考えています。また、「未来へつなごう」をスローガンに掲げ、グループ全体でSDGs重点課題の目標達成に向け取り組みを進めていきます。

コープデリグループ  
理念

CO-OP  
ともに はぐくむ  
くらしと未来



SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

## コープデリグループの SDGs重点課題



コープみらいの  
マスコットキャラクター  
“ほべたん”

# 01

持続可能な生産と  
消費のために

P18-25

持続可能な生産と消費のために、  
商品とくらしのあり方を見直していきます



# 02

安心して暮らせる  
地域づくりのために

P26-29

誰もが安心してくらし続けられる  
地域社会づくりに貢献します



# 03

人にやさしく  
誇りが持てる  
組織を目指して

P30-33

1人1人の人権・多様性が尊重され、  
誰もが安心して働ける職場づくりを進めます



# 04

100年後の  
地球のために

P34-37

再生可能エネルギーの利用・普及を進め、  
地球温暖化対策を進めます



# 05

世界中の人々の  
平和で健康な  
生活のために

P38-39

世界から飢餓や貧困をなくし、  
世界平和を実現できる取り組みを進めます





はなゆき農場(北海道足寄郡)で有機牛を育てる生産者の中村梢乃さん

# 01

## SDGs重点課題

### 持続可能な生産と消費のために



持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます

- 1 | 人や社会、環境に配慮した商品を選んで使うエシカル消費に対応した商品の開発と拡大・普及を推進し、2030年度までに2019年度供給高構成比2倍を目指します。あわせて、消費者(組合員)にエシカル消費への共感と行動を広めていきます。
- 2 | コーペデリで取り扱う商品について、原料調達から生産・消費までを通して、人権や環境などに配慮した「責任ある調達」ができるよう取り組みを進めます。
- 3 | 産地とパートナーシップを深め、持続可能な農水畜産物の生産・消費に貢献できる取り組みを進めます。
- 4 | 事業における容器包装と資材の使用量を削減します。プラスチックは、2030年までに2018年度比25%削減します。家庭でできるプラスチック・容器包装削減の取り組みを進めます。
- 5 | サプライチェーン全体における食品廃棄物、食品ロスの削減を進めます。食品廃棄物は2030年までに2018年度比50%削減します。家庭での食品ロス削減を進めます。



## 持続可能な畜産業を目指す若手生産者を応援 ～産直はなゆき農場有機牛

有機牛の生産は飼育条件、飼料、健康管理など厳しい有機JASの認定基準をクリアする必要があり、生産者の負担の大きさが課題となっています。

自然界の力を生かした畜産業を目指し、コープデリグループが若手生産者を支援する「産直はなゆき農場有機牛」の取り組みが「サステナアワード2023」(主催:あふの環2030プロジェクト(農林水産省、消費者庁、環境省))で農林水産大臣賞を受賞しました。農場の様子や取り組みについて、受賞した動画をぜひご覧ください。



生産者の上田さん、中村さんと熊崎理事長

## 生きものにやさしい米づくりで、佐渡をトキのふるさとに ～佐渡トキ応援お米プロジェクト

詳細はWebで  
ご覧いただけます >



コープの産直米の産地、新潟県佐渡市では、トキをはじめとするさまざまな生きものと共生する農業に取り組んでいます。2010年にスタートした佐渡トキ応援お米プロジェクトは、「CO・OP産直新潟佐渡コシヒカリ」とその加工品の売り上げの一部を「佐渡市トキ環境整備基金」に寄付し、トキやさまざまな生きものたちと共生する、環境にやさしい農業を応援する取り組みです。2023年度は353万503円を寄付しました。

佐渡で取り組む生きものと共生する農業がトキの野生復帰を後押しし、今では500羽を超えるトキが佐渡の空を舞っています。



寄付額累計

3,627万2,095円

## 伊平屋島がこの先もずっと、 美しい島でありますように ～美ら島応援もずくプロジェクト

詳細はWebで  
ご覧いただけます >



コープの産直もずくの産地、沖縄県伊平屋島には、ウミガメがやってくる白い砂浜や美しい海が今も残っています。その自然環境のもと、良質なもずくが育てられていますが、近年、海から砂浜へ大量のごみが流れ着き大きな問題となっています。

2010年よりスタートした美ら島応援もずくプロジェクトは、もずくの売り上げの一部を伊平屋村「美ら島応援基金」に寄付し、漂着ごみの運搬・処理など、自然環境保護活動に役立てる取り組みです。2023年度は174万2,056円を寄付しました。

もずくを食べることがウミガメや島の人の暮らしを守り、組合員の食卓の笑顔につながります。



寄付額累計

1,902万6,266円

## 日本のお米づくりをささえる、お米育ちの産直豚 ～お米育ち豚プロジェクト

詳細はWebで  
ご覧いただけます



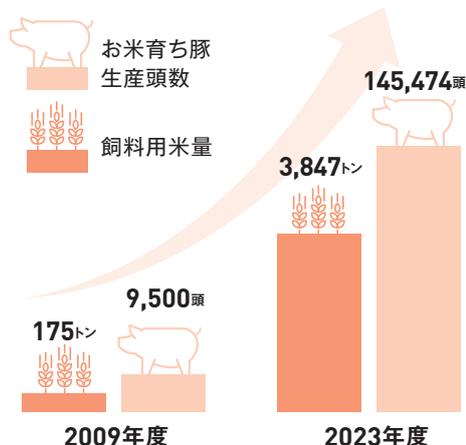
日本のお米の消費量は年々減少しています。2008年にスタートしたお米育ち豚プロジェクトは豚のエサ用のお米「飼料用米」をつくり、豚に飼料用米を食べてもらうことでお米の消費量を増やす取り組みです。

お米で育てた豚肉を組合員にお届けすることで、田んぼを守り、日本の農畜産業を元気にしています。

飼料用米を生産する田んぼ面積

# 641.1 ha

(1haあたりの収穫量6トンで算出)



## 有機JAS認証平飼い放牧鶏卵 ～CO・OP産直 黒富士農場 オーガニックたまご

詳細はWebで  
ご覧いただけます



山梨県甲斐市の山懐、標高1,100mで平飼い放牧される鶏が産む、日本でも数少ない有機JAS認証鶏卵を生産する「農業生産法人黒富士農場」を産直産地に指定しました。産地とのパートナーシップを深め、有機JAS認証鶏卵の取り組みを発展させていきます。

自然と共生する持続可能な畜産を目指し、アニマルウェルフェアに配慮した平飼い放牧では、オーガニックたまごの鶏たちは鶏舎と放牧地を自由に行き来し、のびのびと過ごしています。



### 利用者の声



卵が大大大好き。だからこそ、卵を産んでくれる鶏に感謝して、鶏が快適に過ごせる環境を作る生産者さんを応援したいと思っています。

放し飼いで育てて頂いた卵ならニワトリさんも幸せ! 私も幸せ!



※宅配で取り扱っています。

## 海を汚さない陸上養殖のサーモン ～おかそだちサーモン

詳細はWebで  
ご覧いただけます



環境と社会に配慮した責任ある養殖場で生産された水産製品であるASC認証を受けたおかそだちサーモンは、水を循環させ、海を汚さない独自の濾過システム「閉鎖循環式陸上養殖システム」で養殖されています。海水からの魚病リスクがないため抗生物質を使用していません。

一部店舗での取り扱いに加え、2023年9月からはコープデリ宅配でも取り扱いを開始しました。

おかそだちサーモン出荷量

# 8トン

(2023年度)



# 公正な取引で途上国の暮らしを支援する ～フェアトレードバナナ

フェアトレードとは開発途上国の農産物や製品などを農家の生活が成り立つよう考慮した「フェア(公正)な価格」で継続的に輸入し消費する取り組みです。

コープデリグループでは、産地の自然環境や生産者の労働環境の改善などの、地域に合った特徴ある取り組みと結び付いているバナナを取り扱っています。その中でも、フェアトレードバナナは国際的な認証マークを取得するとともに有機栽培にも取り組んでおり、組合員からの支持を広げています。



フェアトレードバナナ供給重量

430.7 トン

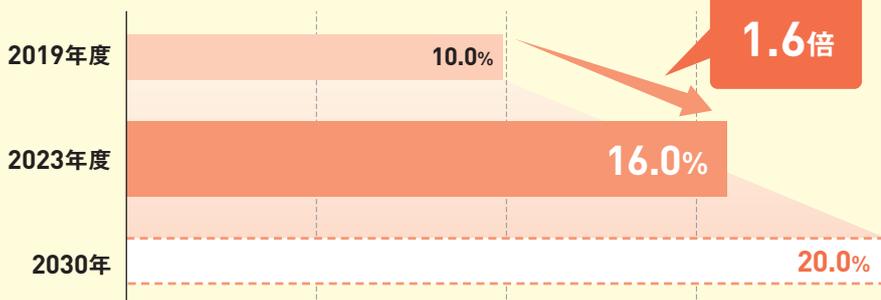
(2023年4月～2024年3月)



## 目標達成への進捗状況

2030年  
目標

エシカル消費対応商品の供給高※1構成比を2019年度比で**2倍(20%)**にします。



※1 供給高：売上高

2030年目標  
2倍

「ともに」取り組む

## 笑顔の明日につながるお買い物を

未来へ続く世界の実現のために、私たち生協は「誰かの笑顔につながるお買い物」と表現し、エシカル消費に積極的に取り組んでいます。

エシカルとは、直訳すると「倫理的な」という意味です。生協では地域や環境、社会や人々に配慮してモノやサービスを買うことを「エシカルなお買い物」として、積極的に応援しています。

どうすればエシカルなお買い物ができるの？ そんな声をよくいただきます。商品を見ただけでは、私たち消費者にはそれが地域や環境、社会や人々に配慮したエシカルな商品なのか分かりません。

そこでヒントになるのは、さまざまな認証マークです。水産の資源を枯渇させないよう、持続可能で適切に管理された漁業でとられた水産製品につけられるMSC認証、一定の基準で農業や化学肥料を使用しないで作られた農産物とその製品につけられる有機JAS認証などがあります。

最近では認証マークの種類も増えたことから売り場で「見つけて選びやすくする」ために「コープサステナブル」として、共通のロゴマークを表示しました。

ふだんのお買い物で「選んで買う」ことが、笑顔の明日につながります。



日本生活協同組合連合会  
コープのエシカル2024

主なエシカル消費対応商品

コープサステナブル商品

このロゴマークが目印!  
サステナブルな  
原材料を主原料に使用

産地指定・国産素材

寄付金付き商品

パッケージや副原料  
に  
環境配慮した商品  
(エコマーク付き商品)

エコマーク商品  
THE ECO-MARKET  
EcoMark

取り組みの進展とともに認証マークもいろいろ…そこで、統一のロゴマークをつけました!

MSC認証  
持続可能な水産物のために  
msc.org/jp

PROTEST ANIMAL  
COPE & NATIVE

RSPO  
CERTIFIED SUSTAINABLE PALM OIL  
3-00098-17-100-00

JAS

※現時点では、産地指定・国産素材・産地など生協独自のマークは含まれません。

コープのエシカル2024より

## 1日に3食、1週間で21食の食事のうち、何食「お米」を食べていますか。 ～ワン・モア・ライスの取り組み

日本では、お米の消費量が減り続け、この50年で半分に。さらに生産コストの上昇や生産者の高齢化・後継者不足など、日本のお米づくりは多くの課題に直面しています。

コープデリグループでは、一人ひとりが無理なくお米を食べる量を増やして、お米の生産者の応援と食料自給力の維持向上につなげる「1週間にもう1杯お米を食べよう ワン・モア・ライス」に取り組んでいます。



ワン・モア・ライス  
特設ページ



### 参加者の声 ▶



お米を主食として食べた日は、腹持ちが良かった！日本人の身体に合っているんだなあ！と実感。

朝からホカホカのご飯が食べられて、1日頑張ろうと元気が湧きました。

## 高校生と「ともに」食品ロスの解決を考えたコープデリミールキット ～鶏団子と玉子豆腐のタイ風スープ

東京成徳大学高等学校で「SDGs」をテーマに研究しているゼミグループ「結YUI」(2023年度卒業)の皆さんと意見交換やミールキットの工場見学などを通して、約2年にわたり交流を深めてきました。利用者に「食品ロスや異国文化について学び考えてもらいたい」という想いのもと共同でミールキットを開発しました。

具材のひとつにミールキットを作る工程で廃棄されていた白菜の外葉を活用。外葉ならではの鮮やかな色味と食感を楽しめるよう工夫しました。



捨てずに  
活用した白菜の外葉

**174 kg**  
(2,900食×60g)

## 始まりは"もったいない"を減らしたい ～利用先がなく捨てられている原料を商品化

組合員広報誌の  
記事はこちら



規格外で流通できなかった素材や製造時に出る副産物など、食べられるのに利用先がなく捨てられてしまっている原料を商品化する取り組みを進めています。生鮮用の規格に沿わなかったバナナを使用したスムージーや、梅酒の梅のドライフルーツ、豆乳を絞った後に残るおからを無駄なく使ったドーナツなど、もったいないをおいしく食べて食品ロス削減に貢献できる商品の品ぞろえを拡充しています。

ドライフルーツ製造時に出るシロップを使った「CO・OPもっちりジュージー!フルーツゼリー」では製造工程を組合員向け広報誌で紹介。製造会社の想いや工夫を伝え、組合員からも「廃棄されていた原料から作られているとは知らず、大変驚きました。活用を考えた企業努力が素晴らしいと思います」などの声が寄せられました。



## ちょっとしたキズやサイズ不揃いも ～規格外農産物の取り扱い

詳細はWebで  
ご覧いただけます



ちょっとしたキズ、サイズの違いで規格外となる野菜や天候被害を受けた果物は、商品として流通させることが難しく、多くの場合、加工用に回されたり廃棄されたりします。

コープデリグループは見た目は劣っても味には影響のない農産物を、理由を伝えて「不揃い」「ハネッコ」「天候被害果」として販売しています。

また、畑で採れたトマトを選別せずにさまざまな形のものを丸ごとお届けするなど、産地と組合員のつながりの中で生まれた商品も、今ではコープの人気商品です。

2023年度天候被害果・規格外農産物供給重量

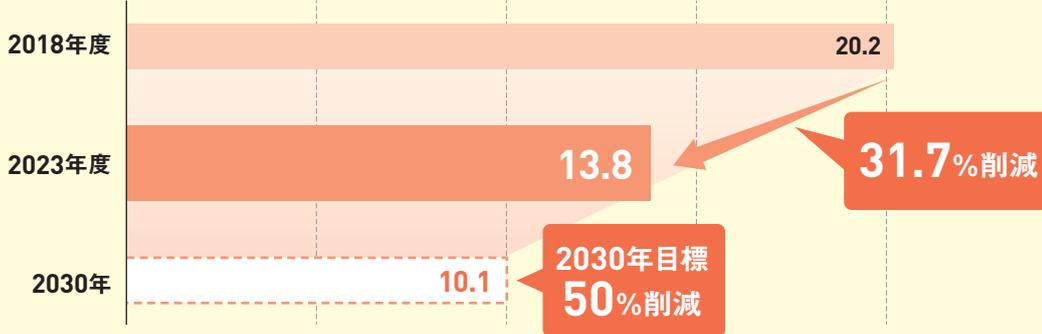
10,496 トン

### 目標達成への進捗状況

2030年  
目標

事業における食品廃棄物を2018年度比**50%削減**します。

※店舗供給高当たりの最終廃棄量(単位:kg/千万円)



「ともに」取り組む

### 私たちの買い物が未来を変える

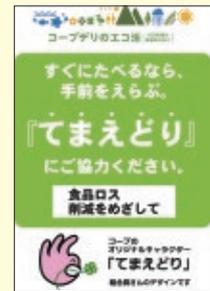
食べられるのに、食べることなく捨てられてしまう「食品ロス」。日本の食品ロスの量は年間472万トン※と推計されています。事業系の食品ロスが236万トン(50%)、家庭からの食品ロスが236万トン(50%)と、どちらも途方もない量です。私たち消費者も、家庭での食品ロス削減に取り組む必要があります。

「てまえどり」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。すぐに食べるなら陳列してある商品の手前から取って購入することで、店舗での消費期限、賞味期限切れによる食品廃棄物を減らすことにつながります。こうした私たちの行動により毎日のお買い物でも事業系の食品ロス削減に貢献することができます。恵方巻きやクリスマス・お正月商品などを予約して購入することで、無駄な生産をなくし、廃棄を減らす取り組みも進めています。

コープデリグループでは組合員がデザインしたキャラクターを活用した「てまえどり」の呼びかけや、農林水産省とともに取り組む恵方巻きの予約販売の呼びかけなどを通じて食品ロス削減を進めています。

手前から取る、予約する、そんな行動が笑顔の明日につながります。

※農林水産省「令和4年度推計」より



## 素材の約半量にリサイクル原料を使用 ～配達器材のリサイクルループを実現

コープデリ宅配では週1回の定期的な配達で使用する物流資材を一度の利用では廃棄せず、回収・洗浄し繰り返し使用しています。このうち、常温品を配達するために使用する折りたたみコンテナで再生原料の使用を開始しました。

リサイクル原料の使用率は41%～57%（サイズにより異なる）で、汚れや破損で使用不可となったコンテナも再生原料として使用します。2023年度は合計2万個を導入し、約11トンのプラスチック使用量を削減しました。



導入により  
削減した  
プラスチック

約 **11** トン

## プラスチック使用量を減らすために ～使用包材をもっと薄くしています

食品をお届けするには、衛生的な包装をなくすことはできません。コープでは使用している包装資材の厚みを薄くしたり、小さくするなどの工夫をしています。

2023年度は店舗で販売している一部のたまごのバックの形状を見直し、シート厚を10ミクロン（0.01mm）薄くしました。また、宅配でお届けする商品を個人別に包んでいる内袋の厚みを11ミクロンから10ミクロンに、店舗でお買い上げの商品を入れるロールポリ袋の厚みを5ミクロンから4ミクロンにするなどし、年間60トン以上のプラスチックの削減につなげました。



2023年度の取り組みによる  
プラスチックの削減量

**60** トン以上

## 声にこたえてミールキットをもっとエコに ～レシピカードを紙素材に

コープデリミールキットは水や油に強いプラスチック性のレシピカードを一部使用していましたが、組合員から「紙素材」に統一してほしいとの要望が継続的にありすべてのメニューについて紙素材に変更しました。

コープデリミールキットはこれまでも組合員の声にこたえてプラスチック容器の軽量化や容器のリサイクルに取り組んできました。2024年2月にはプラスチック容器から紙容器変更への実証実験として3商品約3万点を紙容器でお届けしました。紙容器でのお届けに対するアンケートを実施し、いただいた声をもとに改善を行い、よりエコなミールキットを目指します。



紙素材への変更により  
削減したプラスチック量

約 **9.7** トン

## 組合員の協力で回収したペットボトルを コープ商品の包材にリサイクル

詳細はWebで  
ご覧いただけます



コープデリで回収したペットボトルの一部はリサイクルの旅を経て、組合員のもとへコープ商品のパッケージフィルムに生まれ変わって帰ってきています。

ペットボトルは単一の素材でできているため、とても良質なリサイクル素材です。リサイクルによる再生品の活用において、石油から作られるプラスチックをペットボトルを再生したものに置き換えれば、その分の石油を使わずに済みます。そして、再生品を活用した商品を組合員が利用することでリサイクルの循環が生まれます。生協で回収したペットボトルを再生プラスチックの一部に使用した商品はこれからもさらに増えていく予定です。



取り扱い品目数

91品目

(2023年度末時点)



このフィルムが使用されるコープ商品の軟包材については、「生協で回収したPETボトルを、この袋の再生プラスチックの一部に使用しています」との表示を入れていきます。



生協で回収したPETボトルを、この袋の再生プラスチックの一部に使用しています。

### 目標達成への進捗状況

2030年  
目標

事業における容器包装プラスチック使用量を2018年度比25%削減します。

※供給高当たりの重量(単位:kg/千万円)

2018年度

75.0

2023年度

65.5

12.6%削減

2030年

56.2

2030年目標  
25%削減

「ともに」取り組む

### 「断る」ことも、プラ削減の第一歩

お店で買い物をしたあとに、皆さんは何に入れて商品を持ち帰っていますか。

コープデリグループでは1990年代から組合員にマイバッグ持参を呼びかけています。レジ袋の有料化についても2020年7月の容器包装リサイクル法の改正による有料化以前から取り組んでおり、2023年度のマイバッグ持参率は85.9%と高い水準を維持しています。また、やむをえずレジ袋を購入する場合にも配慮し、コープデリグループの店舗で使用するレジ袋は、サトウキビ由来のバイオマスプラスチック25%配合のレジ袋へ切り替えています。

コープデリオリジナルの保冷バッグや再生原料を使用したエコバッグを販売するなど、楽しく、自分らしいマイバッグを選べるようにラインアップしています。

「レジ袋はいりません」と断ることも、プラ削減の大切な取り組みとして私たちにできることのひとつです。



オリジナル保冷バッグ



再生原料を使用した  
エコバッグ



千葉県富津海岸でのビーチクリーン活動

# 02

## SDGs重点課題

# 安心して暮らせる 地域づくりのために



誰もが安心して暮らし続けられる地域社会づくりに貢献します

- 1 | 暮らしと地域を支える生活インフラとしての機能を果たし続けられるよう、事業・商品・サービスの改善を続けます。
- 2 | 自治体や地域住民・諸団体と連携して、地域の人々が協力し、支えあえる取り組みや仕組みづくりを進めます。
- 3 | 天災などによる被災地の復興支援活動に取り組みます。災害に備え、防災・減災の取り組みや行政や地域の諸団体との連携を進めます。

## 長期休みに食の安全を楽しく学ぶ ～商品検査センターの学童保育向けオンライン見学会

詳細はWebで  
ご覧いただけます >



コープデリ商品検査センターは、コープデリグループ自前の商品検査施設です。年間3万件以上の商品の検査を通じて組合員の食の安心につなげるとともに、食の安全について学べる商品検査施設として、組合員をはじめとする多くの方が来館しています(検査の内容・件数については41ページをご覧ください)。

2023年度はコープデリ宅配をご利用中の学童保育施設の児童に対して、春・夏・冬休みに計14回オンラインでの見学会を行いました。児童たちに楽しみながら食の安全を学ぶ機会を提供しています。



見学会に参加した施設数

参加した児童数



117 施設

5,872 人



(2023年度のべ参加数)

## 写真入りの見やすい注文書で、 誰でも注文しやすいコープデリ宅配に

ご高齢の組合員からの「品数が多すぎてカタログが見きれない」の声に応じて、カタログを見なくても注文書だけで注文が完結できる商品画像入り注文書(フルフォトOCR注文書)をご希望の方にお届けしています。

ご利用されている組合員の声に応え、利用実績に即した商品を優先的に掲載するなど、より利用しやすい注文書への改善を行っています。



利用者の声 >



写真がついているから見やすいし、注文書を見るのが楽しい。

最近、目がみえにくく、今までのOCRへの記入が大変だったから、この写真入りの大きな記入欄があるのはとっても助かる。

## 健康づくりに役立つ栄養バランスのとれた食事メニュー ～学生とともに健康配慮のお弁当を開発

詳細はWebで  
ご覧いただけます >



「毎日が すこやか美味しい コープデリ!」のコンセプトのもと、「産学連携包括協力に関する協定」に基づき女子栄養大学食文化栄養学科の学生が開発した、スマートミール<sup>※</sup>の認証基準をクリアした健康配慮のお弁当を一部店舗で販売しています。

弁当を包む「掛け紙」に描かれたイラストは、開発を担当した学生によるものです。食材一品一品を繊細かつ色彩鮮やかに表現。温かみのあるフォントの説明文が加わることで、楽しみながら、よりおいしく食べられることを追求しました。

※スマートミールとは：健康づくりに役立つ栄養バランスのとれた食事メニュー。一食のうち、主食・主菜・副菜が揃い、野菜がたっぷり食塩のとり過ぎにも配慮しています。摂取カロリーに基づき「ちゃんと」と「しっかり」の2基準があります。



## 59の団体とともに物価高騰に困窮する世帯へ支援を ～お米寄贈の取り組み

詳細はWebで  
ご覧いただけます



多くの組合員利用による剰余金を社会に還元するため、急激な物価高騰の社会情勢の変化の中で困難を強いられている世帯への支援として2022年4月からお米寄贈を行っています。2023年度も1年を通し、千葉県・埼玉県・東京都内のフードバンクや生活困窮者への食料支援などを行っている59団体へ40,084袋(約200トン)を寄贈しました。

お米の寄贈にあたり、各エリアのブロック委員や職員、団体への配送を担当する宅配センターなどと、寄贈先団体とのつながりづくりを進め、寄贈先団体主催のフードパントリーへの参加、寄贈先団体との懇談なども行われました。



寄贈したお米  
5kg×**40,084**袋

## 家庭に眠る未使用のはがきや切手で 子どもたちの支援を ～はがき・切手回収キャンペーン

詳細はWebで  
ご覧いただけます



「コープみらい 子ども・子育て支援基金」は、「はがき・切手回収キャンペーン」によりご家庭で使用されずに眠っている、書き損じ・未使用はがきや未使用切手等を組合員から寄せていただき換金して得られる資金を原資として活用しています。2023年度の「はがき・切手回収キャンペーン」では、組合員からはがきや切手が入った封筒が27,920通寄せられました。

寄せられた未使用切手はそのままでは換金が難しく、額面ごとに専用シートに貼る必要があります。この作業にのべ1,239人の組合員ボランティアが参加しました。寄付先である国内外で子どもの貧困問題等に取り組む団体の活動内容や子どもを取り巻く困難な状況について学んだ後、寄せられた切手を1枚1枚丁寧にシートに貼り付けました。



寄せられた封筒数

**27,920**通



## 協働の取り組みをさらに進めるために ～千葉市とのSDGs推進に向けた包括連携協定を締結

千葉市とコープみらいは2023年11月に「SDGs推進に向けた包括連携協定」を締結しました。この協定は、双方の資源、ノウハウを有効に活用した協働を推進することにより、地域におけるSDGsの推進を目的としています。千葉市とはこれまで、食・環境、子育て・高齢者支援、災害時対応などの分野で課題解決に連携・協力をしてきました。今回の包括連携協定の締結を契機に、健康づくりや高齢化社会に対応した課題解決にも取り組みます。

2024年2月には、この協定の一環として千葉市スマートシティ推進課が主催する「高齢者向けスマホ講座」にコープみらいの宅配から職員が参加し、スマホを活用した買い物支援につなげました。



## 地域と人をつなぐ、みんなの応援団として ～コープみらいブロック委員の活動

詳細はWebで  
ご覧いただけます



コープみらいでは活動地域(千葉県、埼玉県、東京都)を22ブロックに分け組合員活動を行っています。組合員の立場で「地域と人をつなぐ、みんなの応援団」として活動に取り組む約300人のブロック委員が、地域の組合員や地域の人々と一緒に、「みらいひろば」をはじめとした参加の場づくりや学びの場の提供、産地との交流などを行っています。ほかにも活動エリアの行政訪問を実施し地域との関係作りを進めています。また、宅配センターまつり、店舗の周年祭などを職員とともに作り上げています。

2023年度はみらいひろば、子育てひろば、高齢者を含めた居場所づくりなどの企画を2,663回行い、20,552人の地域の人の参加がありました。

居場所づくり企画への参加者数

20,552人



## 組合員の助け合いの気持ちにサポートされて ～返済不要の奨学金制度

詳細はWebで  
ご覧いただけます



日本における「子どもの貧困率」は大きな社会問題となっており、中でもひとり親世帯の貧困率は約半数と言われています。コープみらい社会活動財団は、コープみらいの組合員で、ひとり親世帯(両親がいない世帯も)の高校生を対象とした返済不要の奨学金給付事業を実施しています。

この奨学金給付事業は、コープみらいの組合員の「奨学金応援サポーター」の皆さんからの募金で支えられており、組合員同士の助け合いとして行っています。奨学生と奨学金応援サポーターをつなぐ冊子を発行し、互いの声を届けています。

奨学生の人数

1,658人

※2024年度3学年の合計



奨学金応援サポーター人数

28,719人

(2024年3月末時点)



## 「もったいない」から「ありがとう」へ ～地域で広がるフードドライブの取り組み

詳細はWebで  
ご覧いただけます



フードドライブとは家庭で眠っている食べ物を持ち寄り、フードバンクなどを通じて必要としている家庭や福祉団体などに寄贈する活動です。コープみらいでは一部の店舗などに設置された常設型の食品寄贈ボックスのほか、イベントなどでもフードドライブを呼びかけています。

コープみらいの取り組みを知った地域の小学生や高校生が、学校や店頭でフードドライブを呼びかけるなど地域の中でも広がっています。コープ八千代店(千葉県八千代市)では、近隣の小学生が校内でフードドライブを呼びかけ、集まったたくさんの食品を寄贈してくださいました。また、フードバンクのスタッフを講師に、支援が必要な方へ食品が届くまでの流れも学びました。



フードドライブで集まった  
寄贈食料の重量

25.8トン





コープデリグループ子ども参観日

# 03

SDGs重点課題

## 人にやさしく誇りが持てる 組織を目指して



1人1人の人権・多様性が尊重され、誰もが安心して働ける職場づくりを進めます

- 1 | 多様性が尊重され、それぞれの個性や能力に応じて活躍できる職場をつくります。
- 2 | ジェンダー平等が実現され、性差に関係なく職員が活躍し役割発揮できる職場をつくります。

## 全国の生協とともに被災地支援を ～令和6年能登半島地震への対応

詳細はWebで  
ご覧いただけます >



コープデリグループでは、全国の生協とともに被災地で支援活動をする職員を石川県へ派遣しました。被災地の生協であるコープいしかわの配達業務支援や、被災されたCO・OP共済契約者への訪問活動、被災地の生活再建支援活動を行いました。

また、組合員に向けて緊急支援募金の協力を呼びかけ、コープみらいで3億円を超える募金が寄せられました(募金については41ページをご覧ください)。



### 職員の声 ▶



被災地ではまだ厳しい状況の中、皆さんとても優しく、明るく振る舞われていたのが印象に残っています。私が一週間配達支援をした経験や現地の状況を伝えることで、今後の復興に少しでも役に立てたらと思います。

【配達支援に参加】コープみらい 久保田さん

※所属は当時のもの



崩れたブロック塀を撤去していた際に、住民のおばあちゃんがお自身も手伝いながら、発災直後の状況やご家族の思い出話をされました。被災者同士では弱音がいづらいうので、外部のボランティアが受け止める役割として、お役立ちできればと思います。

【生活支援に参加】コープデリ連合会 山崎さん

## 働く仲間の思いを大切に作り上げる ～ビジョン2035検討ミーティング

ビジョン2035は、組合員・働く仲間がともに掲げる2035年のありたい姿です。コープデリグループには約2万5,000人の働く仲間がいます。ビジョン2035の策定では、働く仲間の参加も大切に進めてきました。2023年の秋にはコープデリグループの各職場でビジョン2035<1次案>の描いた未来を語り合うミーティングを開催し、店舗、宅配をはじめ、本部やグループ会社までたくさんの職員・社員が参加してビジョン2035に対する想いを寄せました。



参加者からのアンケート回答

6,779 件



## イキイキと輝ける将来への道筋を描くため ～生協内インターンシップ

若手職員が将来の働く姿を具体的にイメージし「将来自分もこの仕事してみたい」と目標に向かう道筋を描けるように、生協内インターンシップを2023年度から本格導入しました。他部署の仕事を理解し、やりがいを体感することで、職員一人ひとりが自律的に将来のキャリアを考えることができる環境づくりを進めています。

参加した職員からも「自分の知らなかった業務を知ることができ、日頃の自分の業務に対する意識についても考え直す良い機会となりました」との声があがっています。



参加した入社3～5年目の職員

114 人

## 女性職員が永く働き続けられる組織風土へ ～女性職員同士が交流できる場づくり

女性職員が永く働き続けられる組織風土づくりや活躍の場を広げることができる環境づくりを目的に、宅配や店舗で女性職員同士の交流の場を開催しています。2023年11月に開催された『第3回 Womenいきいきプロジェクト宅配交流会』は、直接話のできるリアル開催となりました。女性職員同士で将来への不安や女性特有の悩みなどなかなか話をする場がないのが現状ですが、このような交流の場を持つことで、同様な想いを持っている仲間がいることに勇気をもらったり、新たにチャレンジしてみたいなど、自らが主体的に前向きな気持ちが持てる貴重な機会になりました。



宅配交流会参加者数

69人

## ともに育児を進めるきっかけを後押し ～男性職員の育児休職取得を進めます

男性職員の育児休職取得率の向上に向け、就労環境の整備、育児支援関連制度の周知及び取得推進に取り組んでいます。同時期に両親で育児をスタートし、育児に関わる経験や喜びなどを共有することを組織全体で後押しし、男女ともに、子育てをしながら、イキイキと働き続けられる職場運営を促進しています。

「育児」を経験することから得られた気づきが、職員自身だけでなく、組合員の気持ちに寄り添い、地域社会の期待に応え、貢献することへのモチベーションにもつながっています。



男性職員の  
育児休職取得率

97.1%

## 同期の仲間と一緒に忘れられない入職式 ～バスケットボールBリーグ冠試合を観戦

コープみらいは、地域に密着して活動しているJリーグ・WEリーグ・なでしこリーグ・Bリーグを応援しています。コープみらいは創立10周年を記念したBリーグ「千葉ジェッツ」冠試合を2023年度の新入職員を迎える入職式と同日に開催し、105人の新入職員がそろいのTシャツを着て応援しました。

試合会場では家庭で眠る未使用食品をお寄せいただくフードドライブも開催し、新入職員も協力して270.6kgの食品、1,140点の文房具が寄せられました。熱い試合と地域の方々の温かい気持ちに触れ、同期との一体感とともにこれから始まるコープみらいでの仕事への思いを新たにしました。



### 新入職員の声▶

最後まで決して諦めず、チームの仲間を信頼し続ける千葉ジェッツの選手の方々に勇気と感動をもらいました。忘れられない入職式になりました。

ハーフタイムの時にフードドライブの受付の前を通ったのですが、たくさんのファンの方が寄付して下さい、とても温かい気持ちになりました。千葉ジェッツもコープみらいも、地域とのつながり、地域貢献という共通の目的の上で今日のこのイベントがあるんだと理解しました。

今回、このような興奮する試合を同期の仲間と一緒に応援できたことにより、より絆が深まりました。スポーツの楽しさだけでなく、努力する人のかっこよさも学ぶことができたので、自分も誰かが応援してくれるような働き方をしていきたいと思いました。

## 共生社会の実現に向けてともに働く ～誰もが働きやすい職場づくり

多様性を認め合い、障がいの有無によって分け隔てられない共生社会の実現は、全ての人が安心して暮らせる笑顔の明日につながります。コープみらいでは、障がい者とともに働くための学習会を開催するなど誰もが働きやすい職場づくりを進めています。

また毎年、特別支援学校からの依頼を受けて職場実習を実施し、実際の職場で一緒に働くことで互いの理解とコミュニケーションを深める機会を設けています。このような取り組みから2023年度は特別支援学校から2人の新卒者が入職し、コープみらいで働く障がい者は173人となりました。

障がい者  
雇用人数

173人

(2024年3月末時点)



## 日本の風景や文化を楽しみながら体験してほしい ～外国人技能実習生への福利厚生

コープみらいで働く外国人技能実習生同士のコミュニケーションを深めるとともに、日本の風景や文化を楽しみながら体験してもらいたいとの思いからレクリエーションツアーを開催しています。2022年度の「箱根バスツアー」に続き、2023年度は夏と秋の2回実施しました。夏の「江ノ島・鎌倉ツアー」では2期～5期までの28人が2日間に分かれて参加。暑い日差しの中でしたが、日本ならではの観光名所を楽しむことができました。このツアーはコープみらいの人事部で働くベトナム出身の職員が、後輩にもあたる実習生のために考えて企画しました。



コープみらいで働く  
外国人技能実習生

37人

## ウェルビーイングを実現する健康経営を ～職員が心身ともに健康でやりがいをもって働くために

詳細はWebで  
ご覧いただけます >



職員が心身ともに健康でやりがいをもって働くことは、組織の活性化に不可欠なものです。コープみらいは2023年3月に「健康経営」を推進することを宣言し、疾病を抱える職員の復職、治療と仕事の両立支援、健康保持・増進に向けた取り組みなどをさらに進めました。

気軽に健康について考える健幸カフェの開催や健康づくり月間、女性特有の身体の悩みを理解する学習会や支援プログラムなど、職員一人ひとりが健康で、多様性が尊重され、安心して働き続けられる職場づくりを進めています。

こうした取り組みが認められ、2024年3月には健康経営優良法人2024(大規模法人部門)に認定されました。



健幸カフェでの体力測定、野菜摂取レベルチェックの様子

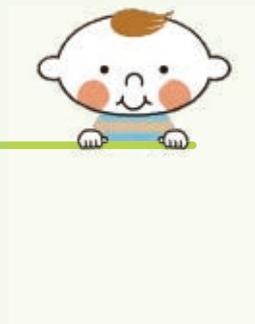


コープみらいコープデリ大宮センターのEV車両

# 04

SDGs重点課題

## 100年後の地球のために



再生可能エネルギーの利用・普及を進め、地球温暖化対策を進めます

- 1 | 事業から排出される温室効果ガスを、2030年に2013年度比60%削減します。2050年には温室効果ガス排出量実質ゼロを目指します。
- 2 | 再生可能エネルギーによる発電を増やし、調達電気の排出係数を低減します。

## CO<sub>2</sub>排出量の削減につなげる ～車両燃料の低炭素化

コープデリグループでは2030年温室効果ガス削減目標の達成に向け重点的に取り組む3つの柱の1つとして、電動化を主とした車両燃料の低炭素化を掲げています。

宅配のトラックをはじめ合計8,000台以上の車両を運行していますが、2023年度はグループ全体で86台の電気自動車(EV)の導入を進めました。おもに営業活動等で使用する軽自動車の入れ替えを進めながら、EVトラックの実験導入も一部の生協で開始しました。



EV導入台数 **86** 台 

## 再生可能エネルギーによる発電をコープの施設で ～太陽光発電設備の設置

詳細はWebで  
ご覧いただけます >



コープデリグループでは2030年温室効果ガス削減目標の達成に向け重点的に取り組む3つの柱の1つとして、再生可能エネルギー創出・使用による電気由来のCO<sub>2</sub>削減に取り組んでいます。宅配センターや店舗、物流センターなどの屋上への太陽光発電設備の設置を進め、発電された電気の一部をコープデリグループの施設で使用しています。

2023年度は6施設に新たに設置し、発電能力(設備容量)が526kW増え、年間237tのCO<sub>2</sub>削減効果を見込んでいます。



再生可能エネルギー  
発電能力(設備容量)



コープみらいコープデリ安房センター

**10,567** kW

## 電気使用量の削減のために ～エネルギー効率の高い自然冷媒機器の導入

コープデリグループではエネルギー効率の高い自然冷媒を使った機器の導入を進めています。店舗の冷蔵・冷凍ケースのほか、宅配センターでお届けする前の商品を保管する冷凍冷蔵庫や物流センターの冷凍庫などへの導入を進めています。

冷媒とは、食品ショーケースや冷暖房装置で「熱」を運ぶ、重要な役割を持っているガスのことです。一般的に冷媒として使われているフロンは、漏れ出すとオゾン層を傷つけるだけではなく、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の約100~10,000倍もの温室効果があるといわれています。自然冷媒は、自然界にもともと存在するため、温暖化への影響をおさえながら、一般的な冷媒と比べて、電気使用量を年間約20%削減できます。



コープみらいコープ久喜店

自然冷媒機器の  
導入施設数 **21** 施設 

## 店舗から出た食品廃棄物を電気に活用 ～バイオガス発電によるリサイクル

コープみらいでは食品廃棄物を資源としてリサイクルしています。コープみらいの店舗の食品廃棄物のリサイクル率は2023年度94.5%と、食品リサイクル法の再生利用等の目標60%(食品小売業)を大きく超えています。

リサイクル方法のひとつ「バイオマス発電」では、食品廃棄物を微生物の働きで発酵させ、発生したメタンガスを発電用の燃料として活用します。コープみらいはバイオガス発電を行っているニューエナジーふじみ野(株)に出資し、食品廃棄物の有効活用とCO<sub>2</sub>を排出しない再生可能エネルギーの創出を進めています。



食品リサイクル率

94.5%

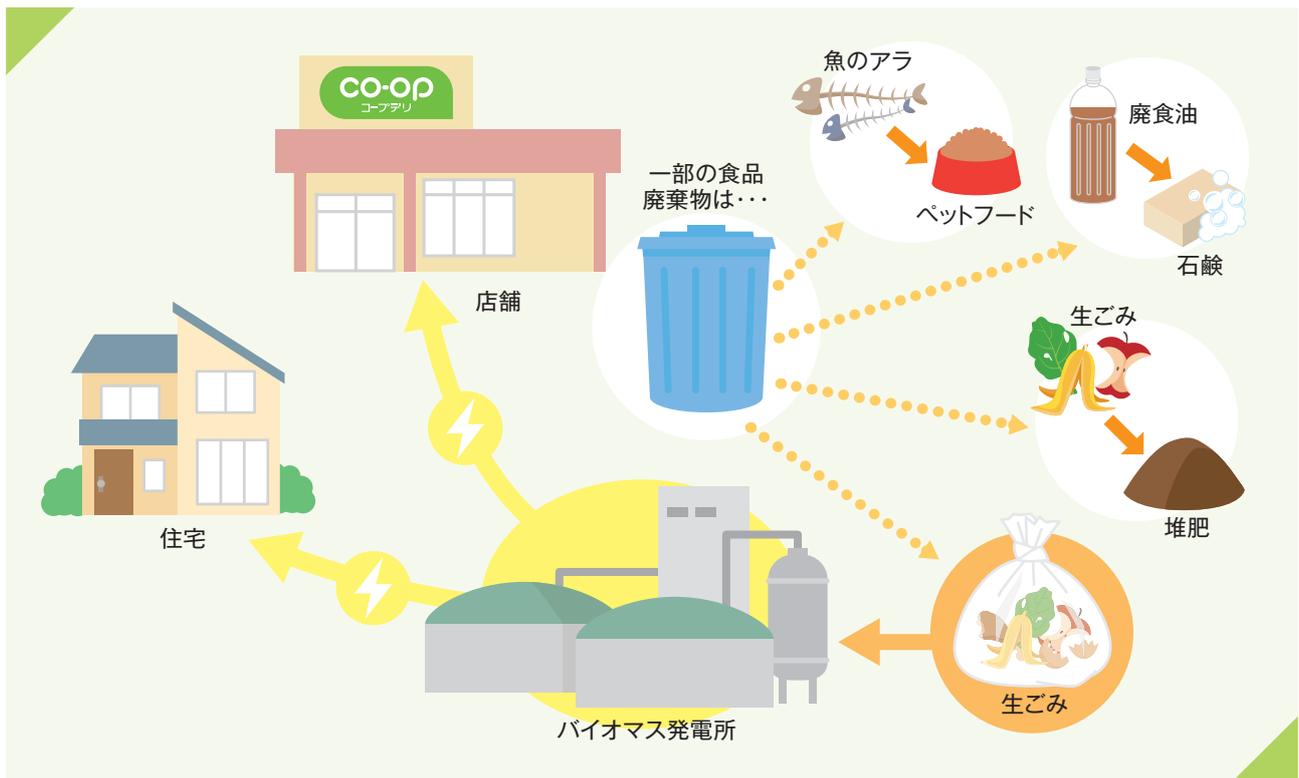
## 食品廃棄物から電気をつくり、 店舗や組合員のもとへ循環させる ～電気のリサイクルループを実践

詳細はWebで  
ご覧いただけます >



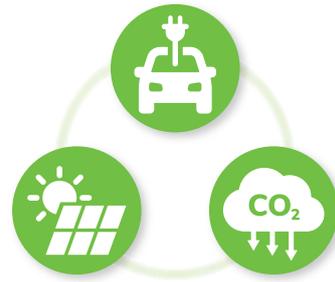
コープの店舗などから発生する食品廃棄物は、資源(燃料)として発電所に搬入して終わりではありません。食品廃棄物から発電された電気は、全国の生協の電力事業を担うために設立された日本生活協同組合連合会の子会社(株)地球クラブを通じて、コープデリグループの店舗をはじめとした各施設や、コープデリでんき「再生可能エネルギー100%メニュー」の電気として組合員のご家庭に届けられています。

店舗の廃棄物から発電した電気が、店舗や組合員のご家庭に届きます。再生可能エネルギーをつくり・つかう循環(ループ)を実践しています。



## 目標達成のための道筋を具体化 ～2030年温室効果ガス削減計画のロードマップを策定

コープデリグループでは2030年温室効果ガス削減目標(2013年度比60%削減)の達成に向け2023年度から2030年度までの期間に重点的に取り組む施策を計画化したロードマップを策定しました。2023年度から2030年度までの期間を2年ごとに4つのフェーズ(区切り)に分け、目標達成に向けて「電気使用量の削減」「電動化を主とした車両燃料の低炭素化」「再生可能エネルギーの創出と使用の拡大」を施策の3つの柱に設定し、推進しています。



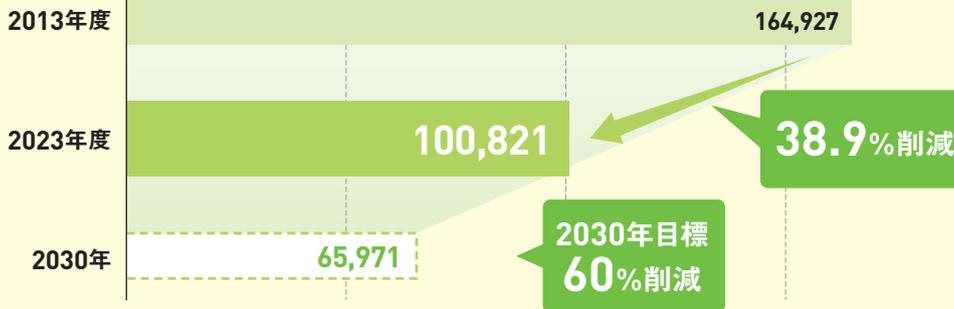
削減目標	第1フェーズ(2023-2024)計画	
	2023年度実績	2024年度計画
電気使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 宅配センター統廃合による効率化</li> <li>● 照明器具のLED化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 冷蔵・冷凍・生産加工機器の更新</li> </ul>
車両燃料低炭素化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 車両EV化86台、車両HV化6台</li> <li>● 宅配センター統廃合による効率化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 車両EV化67台、HV化62台</li> </ul>
再生エネ創出・使用	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自家消費太陽光発電6施設設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自家消費太陽光発電11施設の設置</li> </ul>

### 目標達成への進捗状況

2030年  
目標

事業から排出される温室効果ガスを2013年度比60%削減します。

単位:t-CO<sub>2</sub>



「ともに」取り組む

### 100年後の地球のために学び続ける

この地球を次世代へつなげるためには、現在起きていることを知り、今何をすべきかを考えることがとても重要です。

コープみらいでは、身近なエコを「知る・共有する・やってみる」のきっかけづくりとした環境の取り組み「コープデリのエコ活」をはじめとして、環境について学び実践するための学習会や体験の機会をさまざまな形で行っていきます。特に、子どもたちが楽しみながら身近な環境を知り、学び、そしてこれからの地球について考えるきっかけとなるように、コープみらいの森(八街の森、秩父の森)での自然体験を通じた学びや、田んぼのがっこうなどの農業体験、エコ探検隊など、地域の中で体験できる企画を大切にしています。

100年後の地球のために私たちにできることは何かあるのか。次世代に笑顔が続く社会を作るきっかけのひとつとなるような学びの場を広げていきます。





# 05

SDGs重点課題

上:ヒロシマ平和の旅  
下:(左)ピースアクションinオキナワ、(中央)ナガサキ平和の旅、(右)戦跡めぐり

## 世界中の人々の 平和で健康な生活のために



世界から飢餓や貧困をなくし、世界平和を実現できる取り組みを進めます

- 1 | 飢餓や貧困をなくし、世界の子どもたちを支援する活動を進めます。
- 2 | 核兵器廃絶、被爆・戦争体験継承の取り組みなど、平和な社会を目指す活動を進めます。

## コープの牛乳で子どもたちを笑顔に ～ハッピーミルクプロジェクト

詳細はWebで  
ご覧いただけます >



2008年から続くハッピーミルクプロジェクトは、コープの牛乳の売り上げの一部をユニセフに寄付し、アフリカの子どもたちの栄養改善を応援しています。

2020年度からは西アフリカのコートジボワール共和国を支援しています。5歳の誕生日を迎えることなく命を落とす子どもが減るように、ハッピーミルクプロジェクトによる支援で現地ボランティアが運営する栄養改善のための拠点を作り、母親たちへ栄養・育児の知識を広めています。2023年9月には役職員がコートジボワールを訪れ、支援の状況を視察しました。

2023年度は1,959万9,820円を寄付しました。



寄付額累計

2億8,737万1,596円



## 不要になった衣料品を子どもたちの支援につなげる ～衣料品回収プロジェクト

不要になった衣料品を捨てずにリユース・リサイクルに活用してほしいという組合員の声に応じて、コープデリ宅配で衣料品等を販売する(株)スクロールとともに、衣料品回収プロジェクトを2023年8月に開始し、2024年3月までにのべ2,501人が衣料品回収キットを購入しました。

専用の回収キットを購入いただき、不要となった衣料品を詰めて返送いただくことで、回収した衣類をリユース・リサイクルにつなげます。さらに、売り上げの一部を国内外で子どもたちの未来を創るための活動を行う団体に寄付しています。



2023年度  
寄付金額

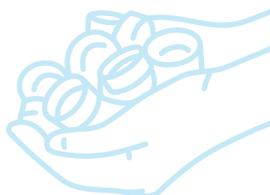
91万3,150円

## ペットボトルキャップのリサイクル売却益を寄付 ～世界の子どものワクチンを

詳細はWebで  
ご覧いただけます >



子どもの命を脅かす感染症は、開発途上国ではいまだに猛威をふるい、ワクチンがあれば助かる小さな命が1日に4,000人も失われています。コープデリグループは組合員から回収したペットボトルキャップをリサイクル資源として売却。売却益の一部を認定NPO法人 世界の子どものワクチンを 日本委員会(JCV)に寄付し、東南アジアを中心にワクチンや関連機器を送る活動に役立てていただいています。2023年度の寄付金額は193万3,800円。これはポリオワクチンに換算すると96,690人分となります。



©JCV

回収した

ペットボトルキャップ

約7,735万個

※重量からの換算

## 認証マーク付商品 供給高

認証・認定マーク	認証・認定内容	供給高(億円)
有機JAS	一定の基準で農業や化学肥料を使用しないで作られた農産物とその製品です。	37.5
MSC	水産の資源を枯渇させないよう、持続可能で適切に管理された漁業でとられた水産製品です。	64.3
ASC	環境と社会に配慮した責任ある養殖場で生産された水産製品です。	
アラスカのRFM	アラスカの責任ある漁業管理のもと持続可能な漁業で漁獲された水産物です。	
BAP	責任ある養殖管理の下で育てられた水産物です。	
MEL	水産資源の継続的な利用を図るため、資源管理と生態系の保全に取り組む日本の生産者を認証しています。	

認証・認定マーク	認証・認定内容	供給高(億円)
レインフォレスト・アライアンス	人と自然にとってより良い未来を推進する方法で栽培されたことを意味しています。ra.org/ja	26.8
フェアトレード	開発途上国の農産物や製品などを不当に安く買うのではなく、農家の生活が成り立つよう考慮した「フェア(公正)な価格」で継続的に輸入し消費する取り組みです。	0.7
RSPO	「持続可能なパーム油」の生産・製造・流通・消費を応援する商品です。	23.0
FSC	責任ある森林管理をしている林業者を応援し、世界の森林保全貢献につながる木材製品です。	373.0
エコマーク	生産から廃棄を通して環境負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品です。	327.4

## 飼料用米の取り組み概況

	供給高(億円)	飼料用米重量(トン)	田んぼ面積(ha) <sup>※</sup>
豚肉	102.4	3,847	641
牛肉	1.4	112	19
鶏肉	2.3	79	13
鶏卵	19.7	1,075	179
合計	125.8	5,113	852

※1haあたりの収穫量6トンで算出

## 産直の概況

	産地・生産者団体数	産直供給高(億円)	産直構成比(%)
農産物	464産地	294.9	49.7
畜産	31団体	206.2	56.1
米	25団体	113.5	73.9
卵	36養鶏場	85.0	82.5
牛乳	4産地	4.6	2.6
水産	13産地	21.0	4.8

## 規格外・余剰農産物供給高

商品名	内容	供給高(億円)
規格外 (ふぞろい・ハネッコ・天候被害果)	形の悪い、大きさが規格外、少しキズがついているなど、食べるのには問題ない農産物を農家も組合員も笑顔になれるちょっとだけお得な価格で販売しています。	55.5
もったいないセット	宅配では、不良などに備えて、予備品として産地・取引先から多めに農産物を入荷しています。使わず余った農産物を無駄なく召し上がっていただくために、セットにして販売しています。	0.2
産地支援セット	異常気象による天候被害果や豊作で余ってしまった野菜をセットでお届け。ちょっとぶりお買い得で、農家も組合員もお互い笑顔になれる野菜セットです。	0.8

## コープみらいのリサイクル資源回収量

回収品目	宅配のみ		宅配・店舗				店舗のみ
	商品とカタログのお届け用ポリ袋	商品カタログ・チラシ	飲料用紙パック	ペットボトル	食品トレイ	たまごパック	アルミ缶
回収量(kg)	397,395	27,029,673	723,930	875,714	426,838	159,054	158,060
前年比(%)	96.3	95.8	97.0	99.0	93.9	103.6	96.1
CO <sub>2</sub> 削減量(t-CO <sub>2</sub> )	1,033	15,677	362	3,153	2,689	589	1,359

## コープみらいの「組合員の声」受付件数

受付方法	声の経路	件数(件)	前年比(%)
こえのポスト(宅配)	組合員が書いたカードで寄せられる声	10,493	95.1
こえのポスト(店舗)		926	96.9
観たこと聴いたことカード	職員が気づいたことを書いたカードで寄せられる声	57,757	88.0
お問合せ案内センター	電話・メールで寄せられた声	29,622	92.3
商品お申し出受付カード	商品に対するお申し出・ご指摘	7,854	89.4
合計		106,652	97.5

## 商品検査実績(検体数)

	日本生協連 商品検査センター	コープデリ 商品検査センター	合計 (検体数)	
微生物や食品中に 残存する 化学物質等の検査	微生物	1,861	26,488	28,349
	残留農薬	1,893	842	2,735
	残留動物用医薬品	305	76	381
	食品添加物	255	116	371
	カビ毒	28	111	139
	ヒスタミン	25	465	490
	放射性物質	383	561	944
食品の品質や 規格成分の検査	栄養成分・品質	1,636	823	2,459
	内容量	253	0	253
	官能	2,749	4	2,753
	品温	0	279	279
食品表示を確認する検査	特定原材料	1,945	430	2,375
	遺伝子組換え	7	48	55
	品種・肉種判別	116	124	240
	産地判別	0	11	11
施設衛生検査	0	3,583	3,583	
その他(上記以外)	359	310	669	
合計	11,815	34,271	46,086	

検査内容が重複しないよう、日本生協連の商品検査センターと連携して取り組んでいます

## コープみらいの募金・寄付の状況

募金・寄付・取り組み名	寄付先、寄付金の活用内容	募金(寄付)金額(円)
ユニセフ募金	日本ユニセフ協会:ユニセフが約190の国と地域で実施する子どもたちの栄養の改善、安全な飲み水や衛生施設の普及、初等教育の普及など	41,390,679
令和6年能登半島地震緊急支援募金 (2024年1月8日~3月31日)	石川県・富山県・新潟県など被災地域の自治体を通じて被災された方々への義援金、被災地や被災地生協の復旧活動費用などの復旧支援	326,136,668
ガザ・イスラエル人道危機支援募金 (2023年12月18日~2024年2月18日)	●日本ユニセフ協会:「ガザ人道危機緊急募金」、日本赤十字社:「イスラエル・ガザ人道危機救援金」 ●パレスチナ自治区ガザ地区とイスラエル間での武力衝突の激化によって危機的状況に置かれている子どもたちや女性を含む被害に遭われた方々を支援	47,634,825
ユニセフ「自然災害緊急募金」 (2023年9月25日~10月20日)	日本ユニセフ協会:「自然災害緊急募金」として、リビアで発生した洪水など自然災害の影響により危機的状況に置かれた子どもたちとその家族の支援に活用	48,895,758
ふくしま復興応援募金	●一般財団法人ふくしま百年基金:復興への取り組み、とりわけコロナ禍でいっそう困難に直面している女性への支援活動 ●福島県:震災遺児・孤児への支援や子どものための事業等	13,935,506
平和の旅募金	コープみらいが行う組合員のオキナワ・ヒロシマ・ナガサキ平和の旅に活用。2020年度~2022年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止、2023年度から再開し活用	2,495,498
子ども・子育て支援基金 (はがき・切手回収キャンペーン)	●社会福祉法人中央共同募金会:「コープみらい&中央共同募金会」として千葉、埼玉、東京で貧困、格差、いじめ、DV、虐待など、困難な状態にある子どもたちの支援活動をしている団体の助成 ●認定NPO法人ハンガー・フリー・ワールド:バングラデシュ、ベナン、ブルキナファソ、ウガンダの子どもたちの栄養改善や住民たちが自分の力で食べ物を得られるしくみ・地域づくりなどに活用 ●認定NPO法人アジア・コミュニティ・センター21(ACC21):フィリピンの路上で暮らす若者の自立支援プロジェクトに活用	21,000,000

寄付金付き商品等の状況

募金・寄付・取り組み名	寄付先	寄付金額(円)	寄付金の活用内容
ハッピーミルクプロジェクト <sup>*1</sup>	日本ユニセフ協会	19,599,820	「ユニセフ・コートジボワール共和国指定募金」 「ユニセフ・アフリカ栄養危機緊急募金」
佐渡トキ応援お米プロジェクト	佐渡市トキ環境整備基金	3,530,503	佐渡市が行う「生きものを育む環境づくり」や「環境にやさしい佐渡米づくり」
美ら島応援もずくプロジェクト	伊平屋村美ら島応援基金	1,742,056	島の海岸清掃など自然環境の保護や、もずく産業の活性化
grow(グロー)	grow基金	1,260,316	メキシコの農園労働者への医療サービス提供や子どもたちの教育などの支援
北カリマンタン マングローブ基金	北カリマンタンマングローブ基金	463,311	エビの産地であるインドネシア北カリマンタン州の環境と未来の水産資源を守るマングローブ植樹活動
インドネシア・エビ養殖業改善 プロジェクト <sup>*2</sup>	WWFジャパン	1,107,780	環境と社会に配慮した責任あるエビ養殖業へ転換する取り組みを支援
コアノスマイルスクール プロジェクト <sup>*2</sup>	日本ユニセフ協会	1,232,421	アンゴラ共和国の子どもたちが楽しく学べる環境づくり (学校のトイレ・水の整備、教師の育成)
CO・OP×レッドカップ キャンペーン <sup>*2</sup> (2023年10月1日~11月10日)	国連WFP協会	1,393,625	ミャンマー連邦共和国の子どもたちに学校給食を届ける取り組み
洗剤環境寄付キャンペーン <sup>*2</sup>	WWFジャパン	446,855	インドネシア各地の小規模バーム農園の持続可能な生産などを推進するプロジェクトを支援
障害者ノルディックスキー応援 キャンペーン <sup>*2</sup>	日本障害者スキー連盟	206,924	日本障害者スキー連盟ノルディックスキーチームの次世代を担うジュニアチーム(10~20代)の合宿・国際大会遠征支援など
スマイルグリーンプロジェクト <sup>*2</sup>	WWFジャパン	719,281	ブラジルのアトランティックフォレストで実施する、森林再生などの活動を応援
ピンクリボン運動 <sup>*2</sup> (2023年9月1日~10月20日)	認定NPO法人 J.POSH (日本乳がんピンクリボン運動)	248,121	乳がんに対する啓発活動や患者や家族の支援

<sup>\*1</sup> この寄付金額には組合員からの募金を含みます  
<sup>\*2</sup> コープデリグループでの対象商品供給高(売上高)に基づき、日本生協連が寄付金を拠出しています

コープみらいの安心して暮らせる地域づくりの取り組み

項目	2023年度実績
米寄贈	5kg米40,084袋、約200トンのお米を千葉、埼玉、東京のフードバンクや社会福祉協議会など59団体に寄贈(P28参照)
フードバンクへの寄付	物流段階で発生した販売できない商品をフードバンクに寄贈。農産28.8トン、米11.4トン、おむつ3,820パック
フードドライブの取り組み	フードドライブ専用食品寄贈ボックス常設施設数57カ所、寄付いただいた食品25.8トン(P29参照)
みらいひろば	組合員や地域の方など誰もが参加できる地域の居場所として、「みらいひろば」を毎月各地域で開催。開催回数2,337回、のべ参加人数18,418人(P29参照)
子育てひろば・ 地域子育て支援拠点事業	子育て中の親子が知り合い、交流できる場づくりとして、各地域で「子育てひろば」を運営。組合員活動としての子育てひろば:72回、のべ参加人数615人。行政に委託されている子育て支援拠点事業10会場、81,456人
自治体との見守り協定締結	職員が配達の際、組合員や地域の高齢者などの異変に気付いた場合、事前に取り決めた連絡先に速やかに連絡・通報を行う協定です。170自治体
自治体・団体との災害協定締結	災害時の緊急支援物資提供などの協定です。千葉エリア29、埼玉エリア34、東京エリア11、計74自治体・団体
くらしのたすけあいの会	お互いさまの気持ち(共感)を大切に、くらしの中の困りごとで「誰かの手を借りたい」と思った時、組合員による有償のボランティアによって助けあう活動。活動回数12,233回、活動時間19,931時間
くらしと地域づくり助成	くらしや文化の向上、社会発展、地域の活性化をめざす市民団体の活動・事業に対して助成。千葉15、埼玉14、東京15、計44団体、総額737万円を助成
平和について学ぶ活動	平和の大切さを次世代に継承するために「知り、学び、伝える」ことを大切にし、平和について考える機会を広げています。戦跡巡り・学習会開催数15回、のべ参加人数392人

# ガバナンス・内部統制

コープみらいは、ステークホルダーとの協同・連携を重視し、透明性、公正さ、適正さを確保しながら経営の効率性を高め、健全経営を全うすることをガバナンスの目的としています。

## 総代会での意思決定と監査

総代会は、生活協同組合であるコープみらいの組合員の代表、総代による最高意思決定機関です。総代は、各選挙区の組合員から選ばれます。通常総代会に向けて年3回、ブロックごとに総代会議を行い、通常総代会に提案する議案を総代と話し合い、その場で出された意見を議案に反映させています。そして、毎年6月に通常総代会を開催し、事業報告や事業計画、予算などを議決します。また、2年に1回、役員(理事・監事)の選任を議決します。なお、事業報告の適正さを確保するため、監事や公認会計士による監査を実施しています。

## 業務執行体制

コープみらいは、理事会を毎月開催し、業務執行全般に関する重要事項を決定するとともに、代表理事による業務執行状況を監督しています。理事会のもとに執行役員会を毎週開催し、コープみらいとコープデリグループ全体の経営課題について迅速な意思決定と業務執行を行えるようにしています。

また、サステナビリティ推進体制として、コープみらい・コープデリ連合会では「コープデリグループのSDGs重点課題～2030年までの長期目標と中期方針～」に沿って、課題・目標を執行役員会で確認し、進捗管理を行っています。

## 内部統制について

コープみらい・コープデリ連合会は、「内部統制に関わる基本方針」を定め、7つの体制の整備を進めています。また運用状況を毎年点検し強化を図っています。リスク管理については、毎年事業経営に与えるリスクを洗い出し、リスク評価から共通重点リスクを設定し、対応策の進捗を点検しています。

2023年度は、コープデリグループ全体で666項目のリスクを洗い出し、評価を行い、124項目の重点リスクを設定しました。また、「安全運転」「情報セキュリティ」「食品の安全」「コンプライアンス」「人員不足・人材育成」「自然災害」の6つを共通重点リスクとして設定し、進捗管理を進めています。

## コンプライアンスの推進について

「コンプライアンスの考え方」「行動指針」「行動規範」を制定し、全体学習(情報セキュリティを含む)を全事業所で実施しています。一方、職員の行動規範に逸脱する行為などに迅速・適切に対応するためにコンプライアンス相談室(ヘルプライン)および公益通報「外部窓口」を設置し運用しています。

## 危機管理について

重大な事故が発生した場合に、その情報がトップに迅速・的確に報告され、適切に対応できるように「クライシス・重大事故等対応規程」を整備し、運用しています。また、危機管理に関わる連絡・報告、対策本部の運営、広報などに関わる具体的な手順を整備し運用しています。さらに、マルウェア等のサイバー攻撃から組織を守ることを目的としたサイバーセキュリティ対策や個人情報や機密情報の保護を目的とした情報漏えい対策など、情報セキュリティの強化を実施しています。

## 地震・自然災害への対応

地震や台風・風水害・雪害などの大規模災害は、あらゆるステークホルダーに甚大な被害を与える可能性があります。コープみらい・コープデリ連合会では大規模な災害で被害を受けた場合でも、早期に事業を再開・継続できるように「事業継続計画書」の補強や、地震や自然災害を想定した訓練、職員の安否確認訓練、無線通信訓練などを定期的に行っています。

コープみらい組織図



7つの体制

1	コンプライアンス体制
2	情報管理体制
3	リスク管理体制
4	効率性確保体制
5	グループ会社など業務適正確保体制
6	監事監査確保体制
7	監事への報告に関する体制

(組織図はいずれも2024年6月現在)

# フードチェーンにおけるSDGs活動MAP

※ フードチェーン:食料の生産、加工、流通、販売、消費までの一連の流れ



コープデリグループは商品開発・調達から商品利用後まで続くフードチェーンにおいて、SDGsに関するさまざまな活動を行っています。またフードチェーンのさまざまな工程において、一人ひとりの組合員が学び、知識や工夫を広げ、行動することで、誰ひとり取り残さない社会づくりに貢献しています。

## 供給（販売）

## 商品・サービス利用

## 商品利用後



誰でも見やすい  
商品画像入り注文用紙



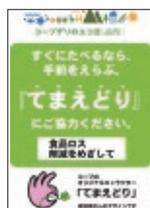
自然冷媒の  
冷凍ケース



容器包装の  
プラスチック削減



食べて  
未来へつなごう



てまえどり



商品の利用を通じた社会貢献



リサイクルへの組合員の参加



組合員から回収したペットボトルを  
リサイクルした商品包材



ペットボトルキャップを  
リサイクルした買い物かご



組合員のフードライブ活動

# コープみらいのサステナビリティ活動のあゆみ

～1960s

1970s

1980s

1990s

## 組織の成長

- 1947 高階村生協(旧さいたまコープの前身、現コープみらい)設立
- 1949 登戸生協(旧ちばコープの前身、現コープみらい)設立
- 1957 桐ヶ丘団地生協(旧コープとうきょうの前身、現コープみらい)設立



産直産地の見学



生協まつり

- 1992 コープネット事業連合(現コープデリ連合会)設立、ちばコープ、さいたまコープが加入
- 1999 コープとうきょうがコープネット事業連合に加入



コープネット事業連合第1回通常総会

## 特徴的な社会的活動

労働組合や消費者団体とともに物価値上げ反対運動に取り組む



「生協婦人大集会」参加組合員のエプロンデモ(提供元:日本生協連資料室)

産直事業の始まり

1979 「バケツ1杯の水」を贈る運動としてユニセフ募金の取り組み開始



豚肉料理講習会の様子

牛乳パックリサイクル運動開始

リサイクルの牛乳パックなどの再生紙を使ったコアノンロール発売



社会に先駆けて開始した組合員による牛乳パックリサイクル運動

くらしの困りごとを組合員同士で助け合う「くらしの助け合い活動」の広がり

1995 阪神・淡路大震災被災地での職員・組合員ボランティアなどによる被災地復興支援活動

1996 自然災害に対する国民的保障制度を求める運動

1999 食品衛生法抜本改正運動

## 主な事業・活動

- 1948 消費生活協同組合法(生協法)成立・施行
- 1951 日本生協連設立
- 1960 CO・OPバター(コープ商品第1号)誕生
- 1966 組合員アンケート、5000人による使用テストを経て衣料用洗剤「CO・OPソフト」発売



組合員テストによる商品開発第1号 CO-OPソフト(洗剤)

週1回定曜日配達の日共同購入のしくみが全国に広まり、物価高騰と有害食品不安のなかで急速拡大

班活動を中心とした組合員活動が広がる

1970 コープ商品政策に unnecessary 食品添加物を排除することを明記

1971 「CO・OP無漂白小麦粉」発売

1973 「CO・OP無着色たらこ」「CO・OP無漂白塩かずの子」発売

1976 日本生協連商品検査センター開設

くらしを守り生協規制に反対する全国生協組合員大集会



共同購入の定着とOCR注文システムにより組合員が飛躍的に増える

各生協で独自コープ商品の開発が進み、商品の開発・普及に多くの組合員が参加

1981 「CO・OPミックスキャロット」発売

1990 生協独自の環境統一マークを制定 日本で初めて「ステイオンタブ缶」の商品を開発



←昔のプルタブ缶  
現在のステイオンタブ缶→

1992 ICA(国際協同組合同盟)東京大会

## 社会の動き

- 高度成長期
- 消費革命、流通革命(スーパーマーケットチェーン展開)
- 公害、大気・水質汚染、泡公害問題が顕在化
- 消費者運動などの社会運動の広がり
- 1960 日米安保条約改定 国際消費者機構結成
- 1964 第1回全国消費者大会
- 1966 公正取引委員会、テレビ価格協定廃棄勧告
- 1968 消費者保護基本法施行

- 甘味料チクロの食品添加物指定取り消し問題、PCBなど有害食品や不当表示などが社会問題に
- 石油危機による物価高騰や物不足
- 団塊世代の結婚ラッシュ、第2次ベビーブーム
- 1971 環境庁設置
- 1972 沖繩復帰 日中国交正常化
- 1973 大規模小売店舗法公布 第1次石油ショック
- 1976 中小企業分野法による生協規制の動き
- 1977 原水爆禁止世界大会統一開催

- 貿易摩擦、輸入食品の急増、残留農薬問題
- 食品添加物の国際標準化・規制緩和
- ごみ問題への関心が高まる
- 1984 大店法による生協規制の動きが最大化
- 1989 消費税導入(3%)
- 1989 平成に改元 日経平均が史上最高値

- 流通業の競争激化
- 消費者の価値観の多様化・消費行動の変化
- O157、ダイオキシン、環境ホルモン、遺伝子組換え食品
- 1991 湾岸戦争勃発
- 1992 経済企画庁「景気拡大」の表現外す
- 1994 製造物責任法(PL法)制定 被爆者援護法制定
- 1995 阪神・淡路大震災 容器包装リサイクル法制定
- 1997 消費税5%に 相次ぐ金融機関の破綻
- 1998 被災者生活再建支援法制定 食品衛生法改正

前身の生協から続くコープみらいの歴史は、一人ひとりの力は小さいけれども、地域の人々が話しあい、協力しあって、くらしや地域をより良くしようとしてきた活動に満ちあふれています。その活動はSDGsが掲げる目標そのものでした。コープみらいが誕生して今年で10周年。私たちはこれからも、くらしに関するコミュニケーションを広げ、国際社会の相互理解を基礎とした平和を追求し、人が自然と共生できる社会システムづくりを通して、持続可能な社会をつくり、次世代へ継承していきます。

> 2000s > 2010s > 2020s



“スーパーフェスタ2000”

- 2000 食品衛生法の改正を求める請願署名
- 2001 生協の食育運動「たべる、たいせつ」開始
- 2008 ハッピーミルクプロジェクト、お米育ち豚プロジェクト開始
- 2010 佐渡トキ応援お米プロジェクト、美ら島応援もずくプロジェクト開始



三宅島帰島支援ボランティア活動

個人宅配の急速伸長



- 2006 コープデリグループ理念、2015年ビジョン制定
- 2007 新しいグループシンボルと宅配事業ブランド「コープデリ」を発表  
インターネット注文システム「eフレックス」スタート
- 2008 「CO・OP手作り餃子」重大中毒事件

- 2000 消費者契約法制定
- 2001 米国同時多発テロ  
国内でBSE感染牛を確認
- 2003 イラク戦争勃発  
食品安全基本法制定  
食品衛生法抜本改正  
食品安全委員会発足
- 2004 消費者基本法成立  
新潟県中越地震
- 2005 京都議定書発効
- 2007 生協法の抜本改正  
新潟県中越沖地震
- 2008 リーマンショックによる世界同時不況
- 2009 消費者庁、消費者委員会発足

- 2013 ちばコープ、さいたまコープ、コープとうきょうが組織合同(合併)し、コープみらいが誕生
- 2017 コープネット事業連合をコープデリ連合会に組織名称変更

- 2011~2019 「東日本大震災復興支援募金」
- 2011 東日本大震災に対し緊急支援物資の提供職員・組合員ボランティアによる復旧・復興支援放射性物質自主検査公表開始
- 2013 「福島第一原子力発電所における汚染水問題に関する要請」を政府に提出
- 2014 「コープみらい 地域かがやき賞・かがやき大賞」「コープみらい くらしと地域づくり助成」を新設
- 2015 一般財団法人コープみらい社会活動財団設立
- 2016 「熊本地震緊急募金」
- 2017 「九州北部豪雨災害緊急支援募金」
- 2018 奨学金給付事業開始  
「原子力発電に頼らない再生可能エネルギーを広げる政策を求める声明」を発表
- 2019 「台風15号被害緊急支援募金」「台風19号被害緊急支援募金」被災産直産地復旧支援ボランティア活動高齢者等の見守り協定締結全170自治体

- 2010 ちばコープでコープデリタ食宅配がスタート
- 2013 ミールキット(そろってGood!)開発  
夕食宅配で「ミールキット」配達開始
- 2014 コープネットグループのめざす姿「ビジョン2025」を策定  
コープネットグループの「フードディフェンスガイドライン」制定  
コープみらいカレッジ開校  
サービス付高齢者向け住宅「コープみらいえ四街道」開設
- 2015 地域の誰もが参加できる集いの場「みらいひろば」を開始
- 2016 「産直コープの里」策定
- 2017 「コープデリでんき」事業開始  
乳幼児向け商品シリーズ「きらきらステップ」発売  
ナチュラル&オーガニックカタログ「VieNature」開始
- 2018 コープデリ商品検査センターを移転・拡張し開設

- 2011 東日本大震災、東京電力福島第一原発事故  
LINEサービス開始
- 2013 特定秘密保護法成立
- 2014 消費税増税(8%)  
ウクライナ紛争
- 2015 国連でSDGsを採択  
安全保障関連法成立  
パリ協定採択
- 2016 平成28年(2016年)熊本地震
- 2019 令和に改元  
消費税増税(食料品以外10%)



2023年コープみらい創立10周年

- 2020 新型コロナウイルス感染症関連募金・寄付金・団体助成、「2020年7月豪雨災害支援募金」
- 2021 コロナ禍の地域医療を支える医療機関への寄付  
「コープデリグループのSDGs重点課題～長期目標と中期方針～」策定  
「2021年8月大雨災害支援募金」  
SDGs重点課題2023推進スローガン「未来へつなごう」策定
- 2022 コープみらい子ども・子育て支援基金設立  
「はがき・切手回収キャンペーン」開始  
温室効果ガス排出量削減目標の引き上げ  
「ロシア軍によるウクライナへの軍事侵攻に対する抗議文」を発信  
「ウクライナ緊急支援募金」
- 2023 「トルコ・シリア地震災害緊急支援募金」  
日本労働者協同組合(ワーカースコープ)連合会センター事業団と「地域づくりに関わる協定」締結  
社会福祉法人済生会と「インクルーシブ社会の実現に向けた連携協定」締結  
ユニセフ「自然災害緊急募金」  
「ガザ・イスラエル人道危機支援募金」
- 2024 「令和6年能登半島地震緊急支援募金」

- コロナ禍でも食のインフラとして、巣ごもり需要を支える
- 2021 コープサステナブルシリーズ誕生
- 2022 コープデリ連合会創立30周年「環境」「食」のシンポジウム開催  
くらし応援全国キャンペーン実施  
産直はなゆき農場有機牛発売
- 2023 コープみらい創立10周年記念シンポジウム「誰ひとり取り残さない社会へ」開催
- 2024 コープデリグループ  
ビジョン2035策定



- 新型コロナウイルス感染症の世界的流行
- 2020 2050年温室効果ガス排出量実質ゼロ宣言  
核兵器禁止条約発効
- 2022 ロシアによるウクライナ侵攻  
成人年齢18歳に引き下げ  
原油急騰  
円安値上げラッシュ  
国内で鳥インフルエンザ猛威を振るう  
世界人口が80億人突破
- 2023 トルコ・シリア地震  
イスラエルとパレスチナ武装勢力による武力紛争
- 2024 令和6年能登半島地震

# コープ(生協)ってなんだろう？

コープ(生協)は、消費者一人ひとりが、くらしのさまざまな願いを協同し、実現するために、事業や活動を通して助け合う消費者の自発的な組織です。日本では「消費生活協同組合法」に基づいて設立され運営されています。一人ひとりが「出資金」を出し、事業や活動の「運営」に参加・参画し、「利用」する組織です。

コープ(生協)とは、正式には「生活協同組合」のことです。略称として、「コープ」がよく使われますが、これは協同組合を表す英語のCo-operativeから来ています。

生活協同組合は、農業協同組合、漁業協同組合、労働者協同組合などと同じ「協同組合」です。

世界中に多種多様な協同組合があり、国際協同組合同盟(International Co-operative Alliance, ICA)が定めた協同組合の共通のルール「協同組合原則」ののっとして運営

されています。

協同組合は、「共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすため、自発的に手を結んだ人々の自治的な組織である」と定義されています。

共通のニーズと願いを組合員が共同で所有する事業を通して実現する点や、管理は民主的に行われていなければならないという点が特徴となっています。



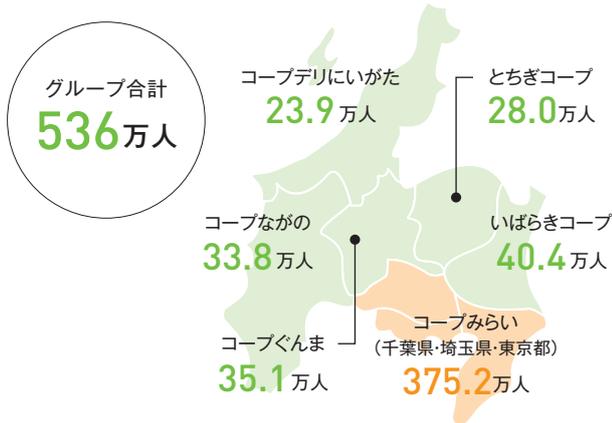
運営の主役は「組合員」です。組合員の声をさまざまな場で受け止め、事業や活動に生かしています。また、各地域で選ばれた組合員の代表である総代は、いろいろな場面で意見を出して話し合い、通常総代会では生協の事業計画や予算などを議決します。

# コープみらいとコープデリグループについて

## ❖ コープデリグループとは

コープデリグループは、6つの生協（コープみらい、いばらきコープ、とちぎコープ、コープぐんま、コープながの、コープデリにいがた）とコープデリ連合会、そのグループ会社で構成されています。

### ▶ コープデリグループ会員生協組合員数



## ❖ 6つの生協とコープデリ連合会の関係

コープみらいをはじめとするコープデリグループの6つの生協は、コープデリ連合会に参加しています。会員生協とコープデリ連合会は、同じ理念とビジョンのもと、それぞれ独立した法人として事業や活動を行っています。

商品・物流・生産・システム・経理・人事教育などの共通基盤を整備し、宅配事業・店舗事業・サービス事業などの本部機能を持つコープデリ連合会を共同でつくり上げています。

コープデリ連合会は関東信越の1都7県、536万人を超える組合員の暮らしを支える生協として日本最大規模の事業連合です。

## ❖ コープみらいの概況

(2024年3月20日現在、事業高は2023年度)

名称	生活協同組合コープみらい
設立	2013年3月21日
本部所在地	〒336-8523 埼玉県さいたま市南区根岸1-5-5
事業エリア	千葉県、埼玉県、東京都
出資金額	721.7億円
総事業高	4,304.3億円
供給高	4,183.3億円
うち宅配事業	3,010.6億円
うちエネルギー供給事業	63.0億円
うち店舗事業	1,172.6億円
共済事業	38.2億円
経常剰余金	124.9億円
正規職員在籍人数	3,125人
パート職員在籍人数*	10,214人
パート職員の正規職員換算人数	4,510人
宅配センター数	76
宅配車両台数	4,106
店舗数	127
うちスーパーマーケット型	69
うちミニ型	58
福祉事業所数	33

\*「パート職員」はパート職員、アルバイト職員、介護ヘルパー職員の合計です

## ❖ 組合員数・組織率

(2024年3月20日現在)

	組合員数	組織率
千葉エリア	90.9万人	31.6%
埼玉エリア	115.4万人	35.2%
東京エリア	165.3万人	22.2%
コープみらい計	375.2万人	27.3%

## ❖ 役員体制 (理事長・副理事長および常勤役員を記載しています)

(2024年6月現在)

代表理事 理事長	熊崎 伸
副理事長	永井 伸二郎
副理事長[非常勤]	古賀 摩希子
代表理事 専務理事	河田 喜一
常務理事(事業管掌)	大川 昌彦
常務理事(宅配・EC事業本部長)	鳥羽 治明
常務理事(管理・開発管掌)	成田 章二
常勤理事(福祉事業担当)	圓尾 佐智子
常勤監事	稻生 修

# コープみらいの事業と活動

## ❖ コープみらいの事業

### 宅配事業

「つかうほど、じぶんらしく。」をブランドメッセージに、週1回決まった曜日・時間帯にご自宅の玄関先まで、6,000品目以上の取扱アイテムから、ご注文いただいた食品や日用品をお届けする「ウイークリーコープ」、週3日からお弁当や料理キットをお届けする「デイリーコープ」の宅配サービスなどを行っています。



### 店舗事業

“おいさと安心を、うれしい価格で。”を事業目標に、スーパーマーケットタイプとミニ店舗が127店舗※、さらにネットスーパーと移動店舗といった業態を展開しています。コープ商品や産直商品、店内加工品など、「コープならではの」のこだわり商品をそろえ、魅力的な売り場づくりに取り組んでいます。



※店舗数は2024年6月20日現在

### サービス事業

くらしをもっと楽しく、快適に。(株)コープデリサービスを通して、生涯にわたり組合員のくらしに貢献する下記の事業を展開しています。



- コープデリ チケット
- コープデリ くらしのサービス  
(エアコン・ハウスクリーニング、ふとんリフォームなど)
- コープデリ ハウジング(新築、リフォームなど)
- コープデリのお葬式 コブセ

### 福祉事業

ケアプラン作成、ヘルパー派遣、障がい福祉サービス、デイケアサービスや(看護)小規模多機能ホーム「コープ夢みらい」の運営を通じて、「住み慣れた地域で安心して暮らしたい」という組合員の願いに応えます。サービス付き高齢者向け住宅「コープみらいえ」では、入居者の自立した生活を支えます。



## 保障事業

CO-OP共済は、生協の事業として組合員の声をベースに、手ごろな掛金、いざという時に役立つ保障内容、わかりやすい手続きといった改善を常に進めながら、組合員とその家族に寄り添い、役立ち続ける事業を目指しています。また、グループ会社の(株)コープデリ保険センターを通じて、さまざまな保障ニーズに対応する保険商品を提供しています。



## エネルギー供給事業

組合員の暮らしと未来にやさしいエネルギーをお届けするために、「再生可能エネルギー100%メニュー」と、より家計にやさしい「ベーシックメニュー」の2つのメニューからなる「コープデリでんき」を組合員に提供しています。その一部はコープデリグループの事業所の太陽光発電施設の電気です。また、一部地域では、経済メリットを追求した都市ガス供給事業「コープデリガス」を提供しています。



※コープデリガスは地域限定です。

## ❖ コープみらいの活動

コープでは、暮らしの中のさまざまな課題に関心を持ち、一人ひとりの力を寄せ合って協力し合うことで、暮らしや地域をよりよくする活動に取り組んでいます。

### | 参加とネットワーク .....

組合員の事業利用や活動参加が広がることで暮らしをよりよくするために、地域の人々・団体とともに、豊かな地域社会づくりに参加しています。組合員や地域の人々がさまざまな活動をきっかけにコミュニケーションを重ね、つながりあい、つながりが網目のように広がることを目指しています。



第44回九都県市  
合同防災訓練への参加

### | 食と商品 .....

「知って、しゃべって、つながって、おいしいみらい」というキャッチフレーズのもと、暮らしに役立つ「商品」について、多様な生活スタイルに共感しながら、組合員同士がコミュニケーションし、食と健康、食育「たべる、たいせつ」の取り組みを通して、よりよい暮らしづくりを進めています。



親子で作ろう  
ほべたんプレート

### | 暮らし .....

人と自然が共生する社会と平和な未来を追求します。心身ともに豊かにくらすようウェルビーイングを意識して、持続可能な未来のために、暮らしを取り巻く多様な課題に向けて、学びあい、共感し、多彩な活動に取り組んでいます。



千葉県富津海岸での  
ビーチクリーン活動



ユニセフ・ラブウォークin 長瀬



とうかつ草の根フードバンク活動見学



「令和6年能登半島地震緊急支援募金」  
の店頭活動

コープみらいのサステナビリティサイト



コープデリグループのサステナビリティ  
Instagram



【お問い合わせ先】

## 生活協同組合コープみらい

サステナビリティ推進部

〒336-8523 埼玉県さいたま市南区根岸1-5-5  
TEL. 048-839-1849 FAX. 048-839-1859



コープみらい／サステナビリティレポート  
読者アンケート

ぜひ、ご意見・ご感想をお寄せください。  
来年度の制作の参考にさせていただきます。  
(2024年11月30日まで)

